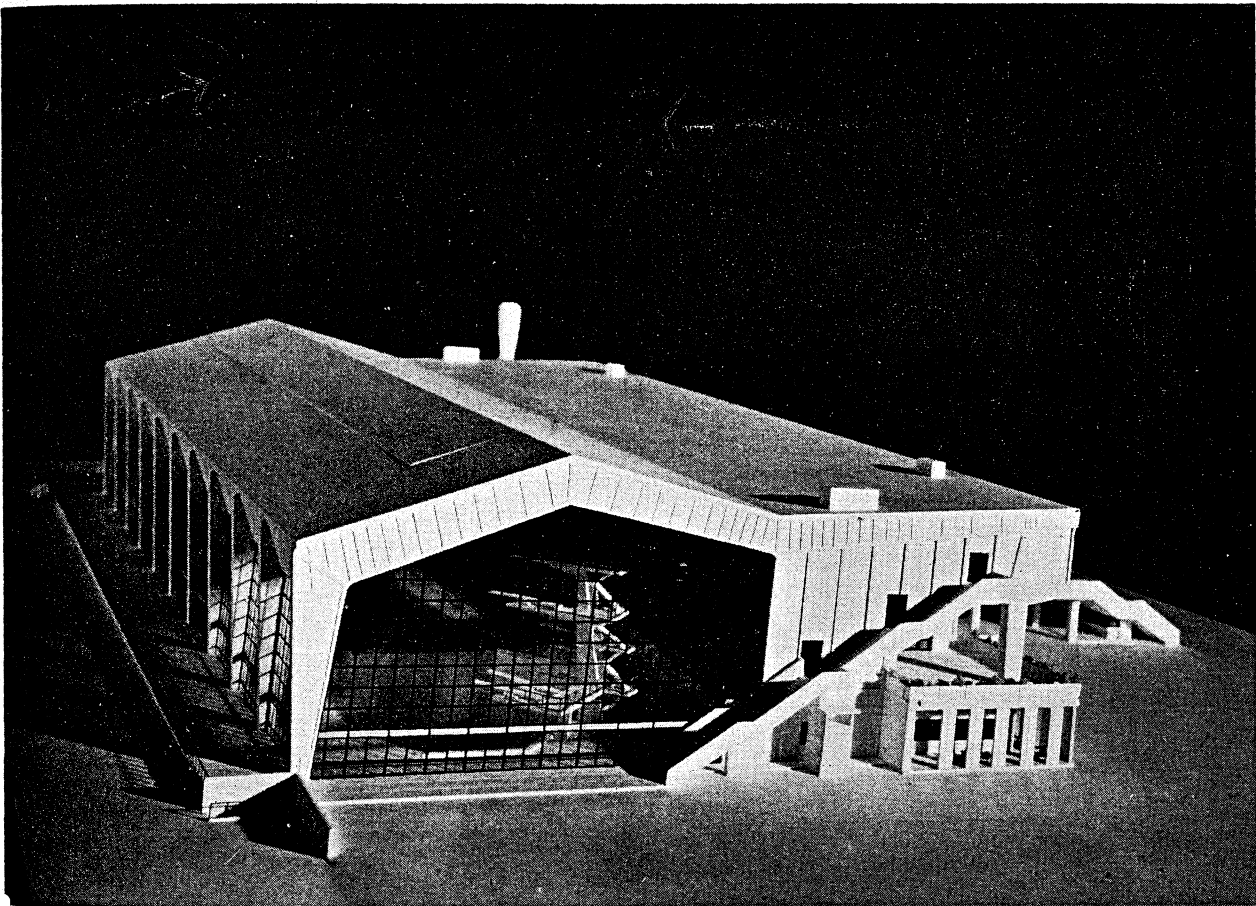


日本水泳連盟
機関紙

第 1 1 6 号
昭和 32 年 8 月

水泳 界



No. 116

“SUIEI”

Aug. 1957

Nippon Suiei Renmei

(Amateur Swimming Federation of Japan)

昭和32年度主要行事日程予定

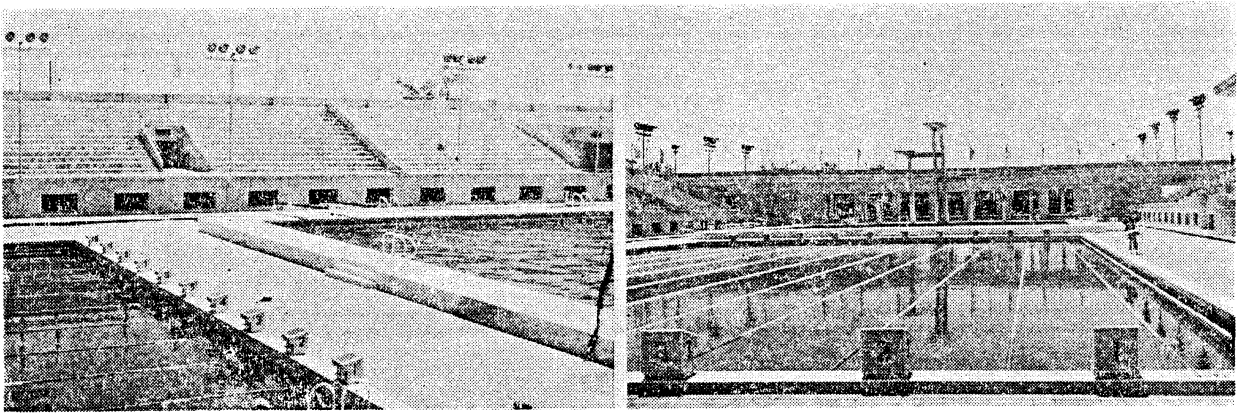
- 3月25日(日)―30日(土) 第1回シンクロ講習会……………江東室内プール
- 6月2日(日) 第29回早慶対抗水上競技大会……………神宮プール
- 6月9日(日) 第22回立・日・明・三大学対抗水上競技大会……………神宮プール
- 6月26日(水)―7月20日(土) 水泳安全指導者講習会……………全国九地区
- 7月7日(日) 第2回日大・中大対抗水上競技大会……………神宮プール
- 7月8日(土)―13日(日) 第2回シンクロ講習会……………国民体育館プール
- 7月28日(日) から8月1日(水) まで東部水泳教室……………天理プール
- 7月23日(火) から8月27日(土) まで西部 〃……………男子…久留米プール
女子…瀬高町プール
- 8月3日(土)・4日(日) 北海道高等学校選手権水上競技大会……………札幌・中島アール
- 8月10日(土)・11日(日) 東北 〃……………新潟長岡プール
- 8月10日(土)・11日(日) 関東 〃……………大宮市・県営プール
- 8月10日(土)・11日(日) 中部 〃……………浜松市営元城プール
- 8月10日(土)・11日(日) 近畿 〃……………大阪市扇町プール
- 8月3日(土)・4日(日) 中国 〃……………松江市営プール
- 8月10日(土)・11日(日) 四国 〃……………香川観音寺一高プール
- 8月3日(土)・4日(日) 九州 〃……………佐世保南高プール
- 8月11日(日) 第2回日本泳法競技会……………天理プール
- 8月14日(水) 第2回日本選手権シンクロスイミング競技会……………目白プール
- 8月14日(水) 15日(木) 水泳指導者検定試験……………お茶の水大学プール
- 8月16日(金)・17日(土)・18日(日) 昭和32年度日本選手権水上競技大会……………神宮プール
- 8月16日～22日 国民皆泳週間(8月20日を中心とする一週間)……………全 国
- 8月23日(金)・24日(土)・25日(日) 第25回日本高等学校選手権水上競技大会…神宮プール
- 8月25日(日) 第3回全日本中学校水泳通信競技大会……………各都道府県一会場
- 8月31日(土)・9月1日(日) 第8回全国勤労者水上競技大会……………鎌倉市営プール
〃 〃 第30回関東学生選手権水上競技大会……………神宮プール
- 9月6日(金)・7日(土)・8日(日) 第33回日本学生選手権水上競技大会……………神宮プール
- 9月14日(土)・15日(日) アジア大会飛込予選会……………神宮プール
- 9月22日(土)・23日(日) 24日(月) 25日(火) 第12回国民体育大会水上競技大会…浜松市元城プール

表紙の写真は目下工事中の東京都室内プールの模型。本プールは50m×20mの競泳用プール、多角形の飛込用プール、それに4000人収容のスタンド、水中照明・循環浄化装置等をそなえ日本としては画期的な室内プール。総工費6億3千万円、昭和33年4月竣功予定、アジア大会に使用。

目

次

中共を視察して	松 沢 一 鶴	2
オーストラリアに於ける戦後の水泳	S. B. グランヂ	5
	(大渡雅士訳)	
サミー・リー氏を囲んで	岩 佐 道 雄	9
飛込記録の分析	矢 野 正 次	11
飛込の知識	飛込委員会	16
シンクロ・スイミング講習会報告	串 田 正 夫	20
水球規則の改正について	水球委員会	21
早慶・立日明・中日の三対抗戦をみて	宍 道 洋 一	23
想い出話・梅沢先生の先見	戸 田 主 雄	28
日本水泳指導者協会の再発足	白 山 源 三 郎	29
水泳指導者協会の回顧と再発足経過	小 泉 正 延	29
日本水泳指導者協会総会	加 藤 紀 夫	30
第6回日本泳法研究会	山 口 和 夫	33
海 外 ニ ュ ー ス		34
連 盟 日 誌		41



北京陶然亭プール

中共を視察して

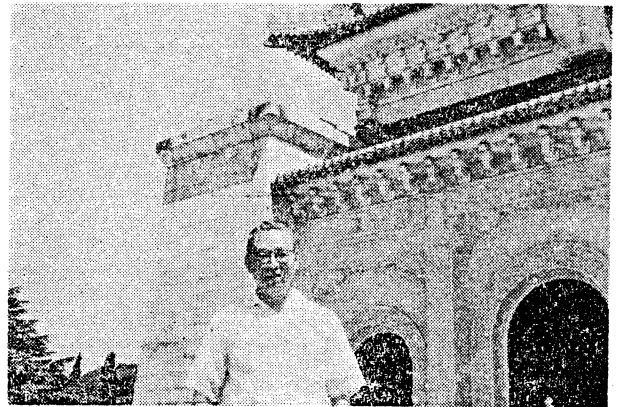
松 沢 一 鶴 (談)

私は今回中共当局の招待を受け、約3週間に亘り、北京、上海、重慶、南京、広州などを視察して参りました。

戦後中共となってからスポーツが非常に盛んになり、素晴らしい施設が続々出来つつあるという話はかねてから聞いておりましたが、実際に行ってみて、その熱の入れように驚き入った次第であります。今回は時期的の関係から競技は殆ど見られませんでした。施設は十分見せてもらいましたので、施設を中心としてお話をしたいと思います。

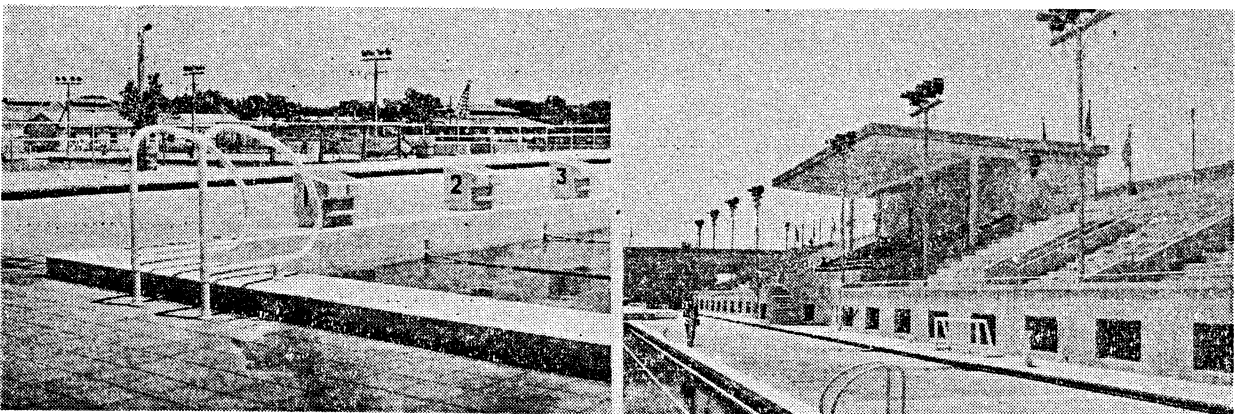
○ 体育の組織と政策

まず組織のことでありますが、スポーツ全体を政治的に極めて重要視しております関係上、政府直属の機関として体育運動委員会を設けております。この委員会は財政委員会、資源委員会などの重要委員会と同じ程度の極めて有力なもので、副総理も委員の一人となっております。(副総理は現在10人) 執行機関としては中華全国体

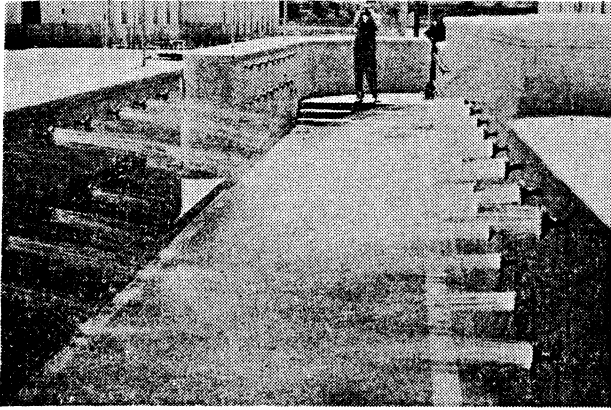


南京中山陵にて(松沢氏)

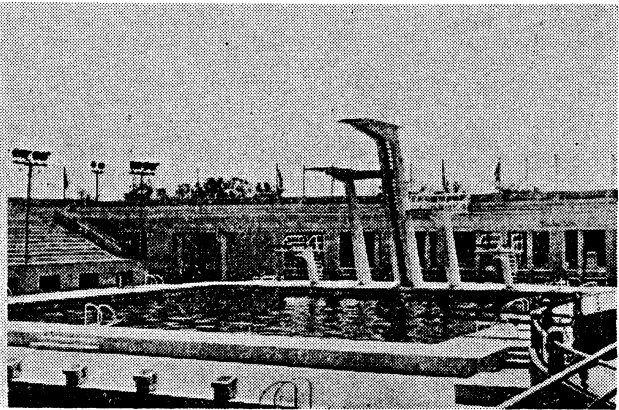
育総会というのがあり、これが日本の体育協会に相当するもので、同時に中共の I.O.C. でもあります。日本と異なる点は、この体育総会が各種の労働団体の体育機関が集って出来ていることで、いかにも共産主義国らしい組



北京陶然亭プール



(横式のシャワー)



(飛込用プール)

織であります。

水泳部門はこの体育総会の下部組織である中国水泳協会が担当しております。これが日本の水連に相当するもので、中国各地に分会がありますが、国が大きいせいとか、地方の状況は北京では余りよく分りません。

中共が現在とりつつある体育政策は、日本が戦争中やりました、いわゆる「国防体育」あるいは「戦技」に近いものを、中共の国策である労働制（労働と国防）の一環として押し進める一方、一般スポーツも又奨励するといった方法をとっておりますが、これは将来矛盾を生じてくるおそれが十分あると思います。このような方法を普及させるために、団体、学校などに相当な政治的圧力をかけているようではあります、強制はしていません。勿論優秀選手は配置換えをして、国で養成するといった方法はとっております。

○ 選手 の 育成

これは中共の新しい試みですが、スポーツをやりたい人は一週に3日放課後2時間位業余体育学校と称する学校で専門の講師について指導を受けることができます。ここであるレベルに達したものは国立の体育学院（全国に7カ所ある）に入学して、さらに技をみがくことが出来るようになってきました。私は重慶で、水泳の業余学校を見学しましたが、若い人達がのびのびと楽しんでや

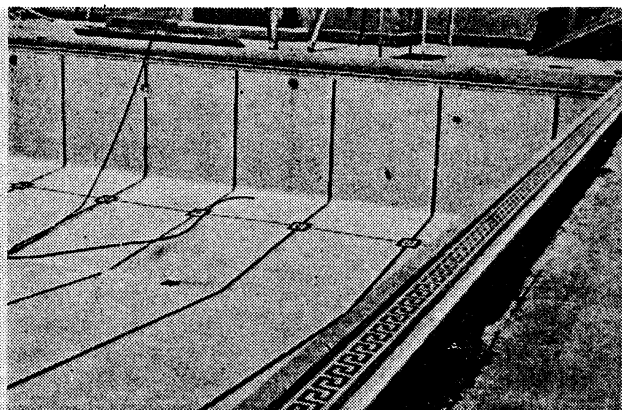
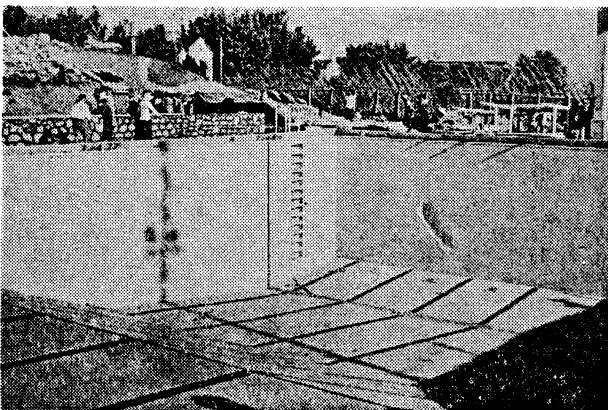
ており、圧迫されているという印象は全く受けませんでした。

運動種目としては陸上競技に最も力を入れているようで、水泳は施設はよいものがあるが、他の種目ほどのびていないように思いました。6月1日、北京の室内体育館で水泳のエグジビション・ゲームをみましたが、感心する程のものは見受けませんでした。体育総会の人達が種本から来てもらいたいものは、水泳、卓球、体操の3日目だといっていましたから、水泳は遅れているものの一つといえるでしょう。

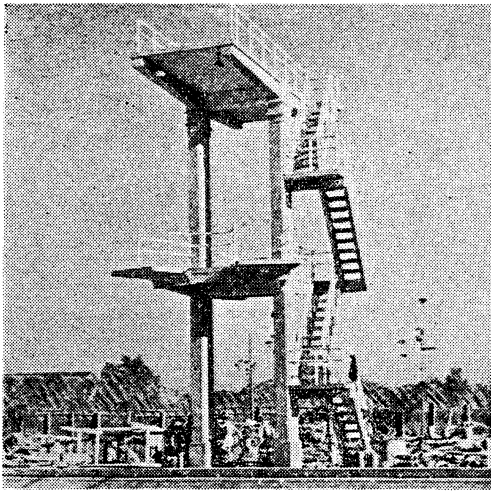
○ 各地 の 施設

北京 最近完成した陶然亭プールは全く素晴らしい施設です。50m10コースの競泳用のプールが2面（その一方には6,000人収容のスタンドがついている）25m×25mの飛込用プールが1面、50m×25mの練習用プールが1面、非整形の児童用プールが2面、（むしろ徒渉池という方がよいかも知れない）。しかもこれらつのプールは、いずれもタイル張り、浄化装置つきといったもので、わが国には勿論、欧米にも見られない豪華なものです。周囲の広場も十二分にとってあり、砂場までも設けられているのですから、誠に至れり尽せりです。

北京体育館は50m×25mの室内プール（7.5m飛込付）1面、5,000人のエグジビションホール、競技用バス



南京五台山飛込プール



南京五台山飛込台



重慶人民労働宮プール

ケット・コート1面、練習用バスケットコート8面をもつ一大総合体育館です。

重慶 プールは大したことはありませんが、陸上競技場は5万人以上の収容力のある大きなもので、バスケット20面、蹴球2面、庭球8面、それにパラシュート塔までついた附属施設をもっています。

南京 中山公園スタジアムの中のプールは、50m×20m、五大山競技場の附属プールは飛込と競泳に分れている非常に美しいプールです。

上海 総合体育施設としてはもっともよいように思いました。立派な室内プールも作られています。私が大正10年の極東大会に日本選手として泳いだ古いプールがまだありましたが、大変なつかしく思いました。(註、大正10年 第5回 極東大会 440Y自由形に6:16.0で優勝。当時一高生)

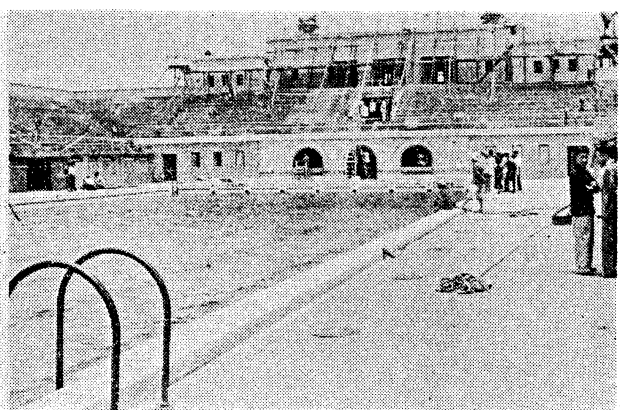
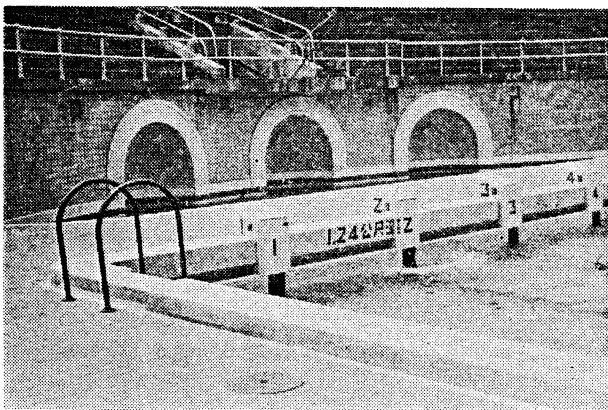
広州 越秀山に6万人収容の大スタジアムができています。これに附属して越秀山人民遊泳場がありますが、規模は飛込もかねた50m×25mのプール1面、15,000人分のスタンド、50m×25mの練習用プール1面、児童用プール2面で、戦後もっとも早くできたプールだそうで

す。浄化装置はありませんが、非常に大規模なものです。また珠江の中洲に体育館があり、その中に50mプールがありましたが、これは周囲が板張りのお粗末なものでした。この他に珠江の河岸を利用して作った簡単なプールが数カ所できており、15仙位で1日ゆっくりあそべるようになっております。大体広州は水泳が盛んなところですが、水球は特に盛んで、私が参りましたときに市民の対抗戦をやっておりましたが、日本の大学のAクラス程度の実力はあるように感じました。

大体以上のようなわけで、事水泳に関する限り、現在の実力は大したことはありませんが、選手育成に非常に熱意を持っておりますから、近い将来、日本のよき競争相手となることは必定と思います。

註 談者は本連盟普及委員、体協理事、中国体育織会の招待により体協から団長として中共を視察、昭和32年5月31日発、6月19日帰国、一行は筆者の他に織田幹雄、鹿子木員信、栗本義彦、竹腰重丸の諸氏。本視察談は7月4日の常務理事会でなされたもの。

(文責在 六 道)



上海江湾プール

オーストラリアに於ける

戦後の水泳

オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ水泳協会名誉総主事S.B.グランジ氏が「オーストラリアに於ける戦後の水泳」と題する一冊を書かれたが、内容的に色々参考になることが多いのでその要約を御紹介する。なお全訳は謄写版刷りとして各加盟団体に配布した。

S. B. グランジ

(大渡雅士訳)

オーストラリアのプロ・コーチが活発に活動しだし、その価値と重要性が認められはじめたのはロンドン大会の後である。そのプロ・コーチの中にはメルボルンの成功に大きな貢献をしたフランク・ガスリー、サム・ハーフォード、ハリー・ギャラハー等があった。その1人、マースデン・キャンベルはアメリカのコーチが採っているシステムを彼自身、親しく観察するためにアメリカへ渡った。

1949年に帰国した彼は、彼自身の考えをおり込んだ練習計画を発表した。

今日の傾向から見れば、事実、それは徹底したものはなかったが、それにも拘らず最近の我々のコーチ活動の基礎となっている根本的な事項を網羅したものであった。キャンベルの計画は前後6ヶ月に亘っており、次の如く分けられている。

- (A) 予備的な整調期間(水に入る前の)……8週間
筋肉の強度を高め、柔軟性を最高にし、心臓の機能を向上させる。
- (B) 準備的な練習期間……6週間
肉体的な適応性を作り、フォームを完成させる。
- (C) ハード・トレーニングの期間……8週間
スタミナとスピードをつける。
- (D) 仕上げの調整期間……2週間
実際の競技会を前にして、一定の期日迄に最高の調子にもってゆく。

これは通常の国内選手権をみざす選手が毎シーズン従う所の練習計画であり、勿論、オリンピックのような国際試合の場合はこの例外であって、オリンピックのような場合は、これよりも遙かに長期間に亘って行われ、且、種目別の特殊性その他選手の個人的な事情等によ

り、個々の必要や欠陥に適合するように、非常に特殊な方法がとられる。

「1952年度オリンピックの準備」

通常のオリンピックでは、我国の選手達は我国でいえば冬の最中に競技を行うことが要求される。その上、我国のシーズンの終りから、選手の出発する6月か7月迄彼らの調子を保っておくのに必要な室内の水泳設備が不足していた。

こうした事情から、選手を気候の温暖な北部クイーンズランドに移すことが提案された。オリンピック・チームは実際には2月末の国内選手権大会の直後に選抜され、6月になってからオーストラリアを出発した。その準備状況は大体次の如くである。

- 2月……チームを選抜。
- 2月～4月……各選手の帰省地に於いて練習開始。
- 5月……タウンズヴィルへチーム移動。コーチの下に一団となって練習。
- 6月……オリンピック・チーム、ロンドン向け出発。バター・シー・プールで練習開始。
- 7月……第15回オリンピック大会。

この計画は、連続性を欠いており、且不十分なものであったことは事実であるが、それにもかかわらず興味ある実験であり、方向としては正しいものであった。

当時のオーストラリア・チームのマネージャーとして私は次の如き論評を行ったがこれは今日の結果に照らして有意義なものであった。

「オリンピックの準備としてのオーストラリア・チームの練習は適切とはいえず、不十分なものではあったが、それを補ったものは、タウンズヴィルに於ける可能

な限りの長期間に亘る（6ヶ月）統制された集団練習であった。

最初にぶつかった問題は、訓練の全期間に亘ってチームの中の一部の選手達によって行われた個別的な練習計画であり、この問題はチームとしての全選手の整調に際して重大な影響を及ぼした。

今迄のオリンピックで好成績をあげたチームには必ず、練習について確固たる信念をもったコーチが参加しており、練習計画は全てコーチにより決定されていたのである。

オーストラリアの現在の事情を考慮した結果、私は次のように考える。

候補選手の最初の指名に今回迄と同様、2月の国内選手権の直後に行うことにより、最良の結果が得られる。しかし、オリンピック・チームのメンバーとしての、最終決定は出来るだけ遅く迄保留し、出来るならばオーストラリア出発4週間前より以後に選考競技会を行うことが望ましい。

その間の4ヶ月の期間、チームをタウンズヴィルに集会させて、オーストラリア水泳連盟によって任命されたコーチの監督のもとに練習させるべきである。この練習期間の終りに再び予選会を開き、最初の候補者を確定し、または練習の成績、練習中の努力、選手の心がけ、その他適当な要素に従って選考委員が派遣選手を決定する。

大ざっぱに言えば、強化計画の筋書は長期間に亘る、柔軟体操や、基本的な整調運動や、規則的で且激しい練習試合、及び特殊な目的に合致する最終的な整備等と適切なバランスをとって組立てられねばならぬ。

水泳選手にとっては第一に素質、それから好成績をあげるための根本である熱心さ、自己鍛錬、練習を円滑に行うための時間と便宜等が要求される。

フォームや練習などには秘訣はないし猛練習の代用品となるものもない。個別的な練習は部分的には好結果を生むが、チームとしての練習こそ必須のものである。そして、最初にして最も重要な課題は選手の中に、好結果を出そうとする根本的な熱心さを育てることである。選手が安易な泳ぎ方をしながらも、水の中で可なりの時間をつぶしていれば、完全に満足するというのは一部のコーチ達に共通したことである。

適切なペースと努力とを練習に注入しない限り、こうした練習からは何らの利益も得られないであろう。「楽な方法」を探し求めるのは人間の常であるが、如何なる練習計画でも練習が実際にコーチの監督の下におかれないう限り成功し得ない。

運といわれるものも結局、選手が年々泳ぐマイル数に

かかっており、又それだけでなく、その距離を泳ぐ方法、特に練習にうち込む精力の総量に左右されるものであるとキップスは述べている。

ヘルシンキ大会に於いて、スタート台に立った我国の代表は皆、立派な成績を残そうという意欲を、他国のどの選手にも劣らぬ程強く示していた。しかし練習に際して、もっと高度の自己鍛錬と、根本的な熱意があったならばもっと立派な成果を収めたことであろう。

この報告はオーストラリアがメルボルンで成功を収めようとするならば、現在の計画を一層拡張する必要があることを一般に強く認識させるのに役立った。

「オーストラリアの水泳とコーチ」

我国のトップ・コーチは概ねシドニーに居住しており、彼らは既成選手の練習を専門に担当し、初心者に水泳を教える仕事は、実際にはプロ・コーチの見習いである経験の浅いコーチ達に任せている。水泳に於けるコーチの重要性は十分に認識され、コーチに対する関心は真剣なものである。

プロ・コーチは各々、首都のプールのどれか一つに本拠をおき、コーチが一年を通じて彼の唯一の職業となっている。彼らによって統率されるグループの大きさはまちまちであるが、それでもその大きさは相当のもので選手の数は50人から100人に達する。そのグループには強い団結心と、紀律と、成功への意欲があり、その中に優秀選手がいることは普通の水準にある他の者に対して刺戟を与えることも事実である。

会員となるものは全て、練習に出て来られるか否か（家が近いかどうか）、家庭的な背景、智能の程度、その他適切な要素を考慮した上で、コーチにより慎重に選ばれる。コーチはその収入を、選手の親や、保護者の支払う謝礼から得るのであるが、これは選考に際して決定的な要素とはならない。又、入門志願者が不足することはない。却って、入門の機会を待っている優秀な選手のあることが問題になる程であるが、こうした者を入れてやることはグループに対する統制力を或る程度犠牲にすることになる。

練習から来る精神的な疲労が、水泳に於いては最も大きな阻止的要因であり、それを癒すものは、コーチの人格と、人間や人間関係の問題に対するコーチの深い理解であることは通常知られていることである。

既に指摘した如く、水泳選手の訓練ということは季節的な職業とはみなされていない。そして毎年の計画は、凡ゆる条件の下で第一に考慮されるべき選手自身の学業や、職業の実情と関連させて編成されるのである。

オーストラリアでは、水泳選手の80%が高校、大学の学生であり、練習活動は休暇をフルに利用して計画される。高校、大学の学年は、3月～5月、6月～8月、9月～11月の三学期に分れ、主な休暇は11月末から3月初め迄の期間であり、それが我らの水泳シーズンに当たっている。通常の年には、国内選手権に至る練習を学校生活のさしたる妨げなしに実施できるもこの期間である。しかし、オリンピックや、その他の国際競技会となると、これは問題である。というのは通常これらは冬の間に行われるが、冬期は学年中の最も重要な期間だからである。これらの条件をすべて考慮に入れて、通常の計画は次の如く組まれている。

冬	5月	柔軟体操と、室内プールでの非常に制限された練習（シドニーには20ヤードの室内プールが一つある
	6月	(60°F) だけである。
	7月	(62°F) ロングコースの屋外プールでの基本的な練習と調整。
	8月	(64°F) 本格的な練習と調整。
春	9月	(68°F)
	10月	(70°F) レースの準備。
	11月	(71°F) 種々の競技会や国内選手権大会。
夏	12月	(71°F)
	1月	(70°F)

(カッコ内は水温)

「メルボルン大会のための準備」

前記の計画は1955年から1956年1月のシドニーに於ける国内選手権大会迄実施された。この大会の結果、選抜された30人によりチームが編成され、オリンピックを控えた国内予選会に備えて徹底的な訓練を受けた。

2月の候補選手選抜後、選手達は4月末迄休養をとった。この際の計画の大体のアウト・ラインは次の如くである。

1955年	11月	国内選手権のための準備と練習。
	12月	
1956年	1月	
	2月	国内選手権と練習グループの選抜。
	3月	柔軟体操とシドニーの室内プールでの
	4月	軽い練習。
	5月	柔軟体操、重量物を滑車で引きあげる。
	6月	体操、軽い重量挙げ等。
	7月	クイーンズランド州・タウンズヴィル

8月	に於ける練習。
9月	ブリスベーンに於ける練習。
10月25日	メルボルンに於ける予選会。
10月31日	チーム、オリンピック村入り。
11月	オリンピック大会。

グループは5月の初め、シドニーの体育館と室内プール（20ヤード）で練習を始めた。毎日午後5時に集合し、幾組かに分れて午後9時迄練習を続けた。

7月、選手団は空路北へ飛び、タウンズヴィルでロングコースのプールを使って練習を開始した。練習の日課は1日が3部に分れており、日曜は休養のため練習を休んだ。

こうした事情の下で、選手達は非常に早く有望なタイムを記録しはじめ、初めのうちの練習試合でも既に急速な進歩が明らかに認められた。

選手達が余りに早くピークに達しすぎはしないかと危ぶむ向きもあったが、コーチ達の確信はみじんも揺がなかった。

9月の始め、チームは南のブリスベーンに帰り、ヴァレー・プールで練習を続けた。その後、彼らは空路シドニーに移動し、10月25日にメルボルンで開かれたオリンピック予選会に出場した。

この練習期間を通じて、コーチ達の最大の問題は、各選手の調子をその能力をその能力の限度内で如何によく保つかということにあった。しかし、或る選手の場合には、その進歩が余りに急速なので、一体その選手の「能力の限界がどれ位のものか」ということを判定することが困難になったこともあった。

最近、或るアメリカのスポーツ・ライターがこのようなことをいっている。「もし、他の国がオーストラリアの指導に従って、その国の水泳選手に真の練習の機会を与えさえしたら、同様の成功を収めたであろう。練習の機会さえ与えられれば、どんな選手でもメダルをとれるものだ。」と。勿論、この議論は不合理である。何となれば、不可欠の要件こそは素質であり素質がなければ練習は時間の浪費にすぎないからである。

要するに、我国のコーチ達の採った方法は何ら新しいものでもなければ、目をみはるようなものでもなかった。それは、コーチの指揮のもとに、理想的な状態で選手達に練習の機会を与えるための、一つの計画なのであり、コーチの存在こそ不可欠のものである。というのは、彼らが、そして彼らだけが選手達の信頼をうけ得るものだからである。

特に私は次のことを強調しておきたい。それは、練習

計画なるものは選手に最上の結果をあげさせるための準備の一つの表現にすぎないのであり、この他に、フォーム、食物、個人の体験、その他精神的な適応性等が全て考慮されねばならないということである。

フランク・ガスリーが適切な意見を述べている。

「一流の水泳選手を作り出すために、泳法のテクニックの果す役割、即ち如何なるストロークが効率がよく、エネルギーが経済的であるかという、即ちテクニックのはかり知れない重要性を我々は軽んじて来ているのではなからうか。

実際我国の一流選手が練習に泳ぐ距離は異常に莫大なものになってきており、その極限に達した現在では、正しいテクニックの習得こそが最も重要な問題になってきているのは疑いえない事実である。

我国の選手が、優れた技術を身につけたテクニシャンとならない限り我国の水泳は世界の水準について行けないであろう。

我国の一流選手、ヘンリックス、ローズ、クラブ等は、恐らくは水泳史上でも最も無理のない、均斉のとれた泳者であり、又先回のオリンピックで各種目に勝ち抜いた選手は、いづれもなめらかな泳ぎをするテクニシャンであった。

このことは、次第に増大する練習量を誰しも疑問としている今日にあっては非常に深い意味をもっているのである。

傑出した選手は常に最良の泳法の創始者である。

オーストラリア・チームが色々の薬品や、酸素、催眠術、特殊な食品等を使用したということについて数々の噂が流れた。

事実、我国では精神の緊張状態をやわらげる技術としての催眠術や、練習後の体力回復策としての酸素の使用について実験を行ったことはある。又、薬品類は使用されておらず、この問題に関する新聞報道はビタミンの使用と混同したものである。

「将来への展望」

メルボルンに於ける我々の成功は、過去にはなかった国際競技への明かるい見通しを与えてくれた。

我々の将来の計画に重大な影響を与える幾つかの要素があるが、そのうちで最も重要なものは、我国のスポーツ役員、コーチ、スポーツ大衆等の態度であろう。フォーブス・カーライルは次のようにいう。「1930年代には、我国のコーチ達は卑屈にも、外国のやり方をうのみにするだけで満足していた。

そのため、水泳をはじめ各種のスポーツは沈滞しきっ

ていたが、最近この傾向は次第に変わりつつある。猛練習と科学の指導とによって我国の運動選手は世界水準のトップに立つようになるであろう。

又、フランク・ガスリーは

「コーチとして、又スポーツの研究者として、我々は従来の凡ゆるドグマからはなれることが必要であり、又、目前の利益を追うことは、必ずしも将来の選手を育成する有効な方策とはならないということは銘記せねばならぬ。

我々がこのことを心に留めておくかぎり、オーストラリアの水泳は世界の一流水準に留まるであろう。」と述べている。

これは進歩した考え方であり、これがオーストラリア水泳界の将来の体制に連続くように希望している。

(訳者は本連盟常務理事)

古川選手にヘルムス杯

米国のヘルムス体育財団は毎年六大州の最優秀アマチュア、スポーツ選手を表彰して来たが、今年のアジアからは古川勝選手が選ばれ、6月9日の三大学対抗戦を機会に体協の田畑国際総務主事から同選手に授与された。

今年の各州代表選手は次の通りである。

アフリカ州…ジュリウス・チグプロ
(ナイゼリヤ、走高飛)

アジア州…古川勝(日本、平泳)

大洋州…ローレン・クラブ(豪州、自由形)

ヨーロッパ州…ウラジミール・クーツ
(ソ連、陸上長距離)

北アメリカ州…パリー・オブライエン(米、砲丸投)

南アメリカ州…ミゲール・アゴスチニ
(トリニダット、陸上短距離)

なおアジア州のヘルムス杯は戦後殆ど日本選手で独占しているが、水泳では1949年の古橋選手以来2度目である。

世界記録は50米か50碼プールに限られることになり、我が連盟永年の主張が実現することになった。これに伴ってこの条件に適しない世界記録は一応ブランクとなってその代りに「マキシム・タイム」が示され、それを破った場合に世界記録として認めることになった。しかし、ここで一つ不可解なことは、米国のコンノ選手が1951年7月7日にホノルルの100mプールで作られた800m自由形の9:30.7がそのまま認められていることだ。おそらく誤りだろうと思うが、FINA公報にのっている以上一応認めざるを得ないので、外国関係の安倍さんがFINAに照会することになっている。今年のケオ仲間大会も此所で開かれ数々の世界新記録が出たがこれは一体どうなるのだろうか。

サミーリー氏を囲んで

岩佐道雄

時 昭和31年12月18日（火）

所 丸ビル九階精養軒

出席者

サミーリー

原 秀夫（水連評議員）

生江哲太郎（水連飛込委員）

中村雅明（ " ）

山東初子（ " ）

鈴木 明（ " ）

高橋庄之助（ " ）

毛利元英（ " ）

西沢礼子（ " ）

川島正之（水連理事・飛込委員）

岩佐道雄（水連常務理事・飛込委員）

通訳 梶田一郎（米国大使館）

（略敬称）



向つて左より岩佐、西沢、生江、サミーリー、高橋、鈴木、山東、原、毛利、中村、川島の諸氏

この度ロンドン、ヘルシンキ両オリンピック大会高飛込競技優勝者サミー・リー氏が米国大統領特使としてメルボルン大会へ派遣された。そして帰途来日されたのを機会に米国大使館の御好意に依り、我々飛込関係者が直接リー氏より飛込に関する種々の意見並びに今次大会の競技状況等を聴く事が出来、参考に資する処極めて多とするものがあつた。

以下はその大要である。

先づ最初に飛込施設関係の事であるが、特に飛込に就いては、この度ファイバー・グラス・スプリングボード（木製ボードをファイバー・グラスで包んだもの）がF.I.N.A.公認となり、今次大会にもアルミ製金属ボードと併用されていた。これに関してリー氏自身としては、未だ充分に使用し研究していないので、はっきりした事はいえぬが、これはアルミボードよりは遙かに安価であり亦弾力の点に於ても極めて軽く良く上るのでアメリカでも相当使用されており、今後益々需要が増える事と思う。然し乍ら耐用年数の点に於て未だ研究の余地があるであろう。若し日本で購入される場合はこれのみにたよらずアルミボードを主として併用すべきである。即ち温度・気候等に左右されず、常に一定のコンディションを

保てる事と耐用年数とを考慮すべきである。

次にシーズンオフの練習、殊に日本に於ては室内プールの設備のない点如何にすべきかという質問に対し、彼自身は陸上板（サンドボード、砂場に飛込を設備したものの。高さ50cm—1m）に依る練習を中心をとし、その他の施設はあまり使用しなかつた。陸上板使用に際して特に留意すべき点は、現在日本で行っている方法と若干異なり、砂を飛込の高さと平行位まで盛り上げ演技は板上で完了する事である。亦板の前方に綱を張って常にその範囲内の一定の位置に着地する様に努力する。これは踏切の確実性を養う一つの方法である。これに加えて、砂をシャベルで盛上げる作業を選手自身が繰返す事が体力増強に大いに役立つと思う。

亦トランポリン・マット（アクロマット）使用の可否に就いての彼の意見は、彼自身は特にこれを使用しなかつたが、このマットはあらゆる跳躍運動の基礎を作るのに役立つと思うから、今後は是非使用した方が良いでしょう。米国に於ては既にこの競技会も行われており、メルボルン大会で飛込飛込第2位に入賞したドン・ハーバー君（一昨年来日）は、この競技の全米選手権保持者でもある。亦最近若い飛込選手がこれによって宙返り、捻

り飛込等の基礎練習を行う者が増えて来ているのを見ても、このマットの利用価値は大いにあるものと判断する。

次に飛込選手と成るには何才位から練習を始めるべきかという問題に対しては、彼は出来るだけ小さい時より始める方が良いが、個々の肉体的条件の相異もあるので一般的には13、4才位即ち中学生頃より始めるのが最も理想的であろうと思う。即ちその年齢ともなれば身体の発育も旺盛となり、ショックに対する抵抗力も充分そなわるであろう。

これに関連して、日本では最近シーズン中に飛込の普及発達のために中学生、高校生を中心とした講習会を開催し指導に当たっているが、アメリカでは如何にしているかとの質問に対し、彼はアメリカに於ては別にその様な組織はないが、選手の数も多いので各地方に於て見込のあるものをクラブに集めて練習させている。この事に関しては日本の方が遙かに組織的であると思う。今後共日本水連の組織を通して尙一層選手養成に努力さるべきである。

次に技術的な問題に関しては、特に日本選手が従来最も不得手とされている捻り飛込について、彼は日本選手は非常に器用であるにも拘らず、タイミングが悪い。即ち捻りの時期が総て遅い。従ってモーションが鈍くなる。この点特に注意すべきである。亦もう一つ重要な点は、これは捻り飛込のみに限らず宙返り等に於ても頭(首)の位置に気を付ける事である。即ち頭(首)は常に顎を引いた真直ぐの型でなくてはならぬ。頭(首)を使って宙返りしたり捻ったりするのではなく腰で行うのである。この事は入水の動作を正確にする上に殊に必要な条件である。亦入水に関しては日本選手、特にメルボルンに於ける馬場、馬淵両選手のホームを見たが、身体のそりが出過ぎていた様である。このために入水が不確実となっている。腰、腹筋を鍛錬しこれを是正しなければならぬ。次に助走、踏切の動作に就いても安定度が足りない。即ち高く上る事も必要な条件ではある。メルボルンに於ける馬場選手は非常に良く上っていた。この点は大変結構な事であるが、然し乍ら踏切が常に一定ではなかった様である。何を飛んでも同じ姿勢で同じ所に降りる様にしなければならぬ。そのために助走の姿勢、踏切の手の使い方、頭(首)の位置等常に正しくすべきである。これは女子選手の場合も同様である。

次に種目は現在殆ど限度に達していると思われるが、今後どのような種目が出来るであろうかという質問に対して、彼は前宙返りは4回半、捻り飛込は3回捻り迄は可能であり、4回半は自分も嘗て試みた事もあり、アメリカは既に3回捻りを研究中である。

次にメルボルン大会に於ける競技の状況に就いては、メキシコ、ソ連の選手等がアメリカの技術を最も良く取入れて飛んでいた。ソ連はコーチが非常に多くの写真、映画等を撮り、これによって研究した結果であろうと思われる。日本に於ても出来るだけ多く撮影して研究資料とすべきであり、飛込にはこれが非常に有益な方法である。日本の選手も非常に良く練習し、立派な競技を行っており技術の点では大差は無かったが、前述の如く基本動作の未熟という点に於て敗れたものと思う。この点を充分心に銘記して今後に処するべきである。亦審判問題に関しては政争問題がからんで不明朗な点もあった様に思われるので、今後審判選出方法は充分研究されねばならぬが、要するに誰が見ても美しく立派な飛込を行えば難点の付け様がないわけで、選手自身はあまりこの事にこだわる必要はないと思う。

以上が我々の質問に対する彼の意見であるが、

亦最後に彼は、自分の様な体軀(彼は5尺2寸位の小軀)の者でさえオリンピックチャンピオンになれたのであるから、将来日本選手も努力次第で必ず優勝を遂げる事は可能であると確信する。選手及び関係者の方々のたゆまぬ努力を期待する旨強調され、2時間に亘る懇談を終了した。

我々飛込関係者としてはこの貴重な機会を持ち得て非常に喜ばしい事であり、多忙なスケジュールを割いての彼の熱意と、米国大使館の御好意に対し心から感謝の意を表する次第である。(筆者は本連盟常務理事)

キッパス氏来日

日本水泳界になじみの深い米国エール大学のコーチ・ポップ・キッパス氏が愛孫メイグ嬢(12)をつれて7月8日来日。今度は水泳ではなく夏休みを利用して世界一周旅行の途中というわけ。

本連盟では同氏と特に関係の深い田畑、安倍、小池、古橋、太田、川田、根上の諸氏と小山専務理事、小出会計理事が7月9日銀座松坂で静かに会食を共にしながら懐古談に話がさいた。

飛込記録の分析

矢野正次

飛込施設の充実に伴って年々各競技会共、出場者が増加して来たことは、飛込関係者にとって喜ばしい次第である。

そこで競技会の結果から見た年度別および競技会別の傾向とか発展の度合、あるいは難易率と平均の関係等について、いろいろ分析調査して見ることは、今後、選手を指導して行くうえにも、また選手自身にとっても意義あるものと思う。

今回は、対象者として昭和31・30・29年度日本選手権大会の男子、女子および学生選手権大会の6位迄の者を選び、その結果を図表にし、説明することにした。

まず難易率と平均の関係进行分析してみたが、これによって各年度別の傾向がわかった。

傾向をあらわすには、数値の分布より曲線で図示した方が有意であるが今回は、対象者を6位迄としたために例数が少なく有意な傾向曲線が求められないので、全体の分布をゾーンで示し、それによって傾向を知ろうとし

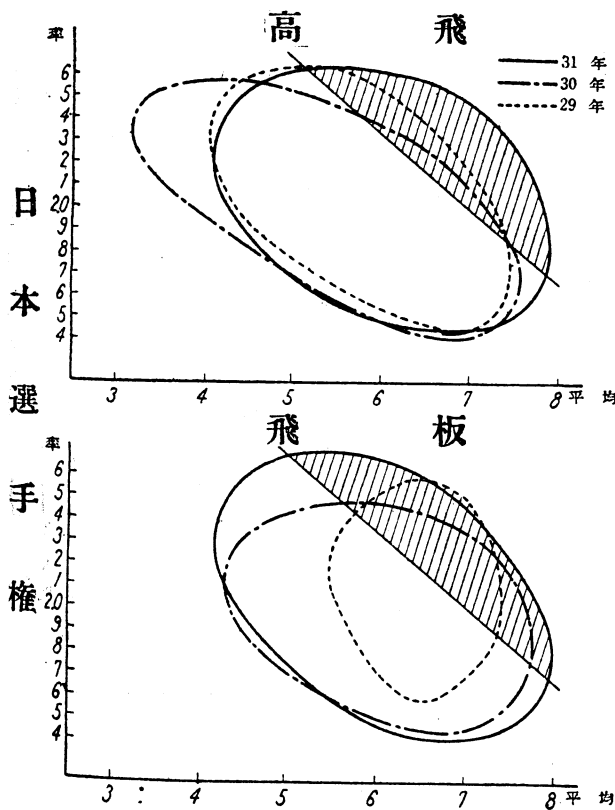
た。ゾーンの右上に斜線が引いてあるが、これは、競泳の標準記録にでも該当するような性質のもので1種目の平均と難易率との関係をあらわす、ボーダー・ライン (Border line) である。

すなわち、男子の場合では一応、10種目で140点が目標となっており、これは1種目あたりの平均得点が14点ということである。同様に女子では飛板120点、高飛70点で、それぞれ平均得点が12点となる。

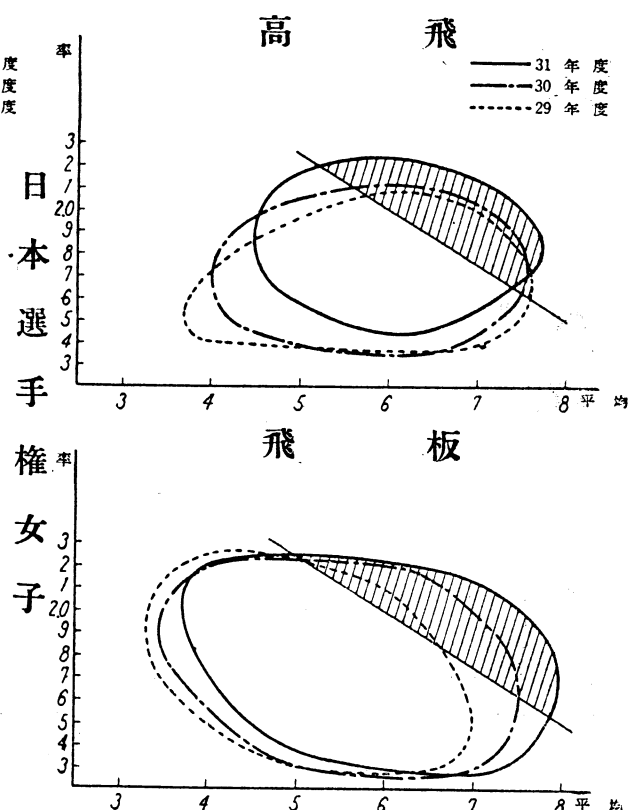
望ましいのは、ゾーンが小さくまつまりボーダー・ラインに多くかかっていることである。これは得点の高いことを示すと同時に技術的にも優れているといえる。

第1図は、日本選手権大会男子の飛板、高飛の傾向ゾーンである。これを見ると全般的に少し大きいようであるが、29年度の飛板が最も良く、またゾーンも小さくなっており、皆の実力が伯仲していたといえる。30年度は、飛板、高飛共に低調であったようである。31年度はゾーンは大きいですが、ボーダー・ラインにかかっている部

第1図



第2図



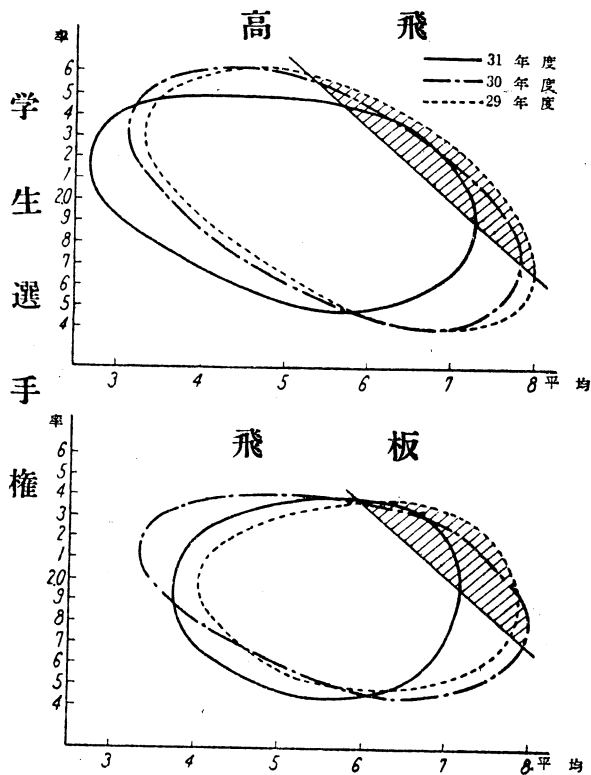
分が多くなっており全般的に進歩していることを示している。このことは、難易率の高い種目も無難にこなし良い点とれるようになったとも考えられる。

第2図は、日本選手権大会女子の傾向ゾーンであるが、男子に比べて女子は、年々進歩している傾向を示している。とくに31年度の高飛は、一段と飛躍しており、女子高飛込の有望説を裏付けるような結果があらわれた。飛板は、遺憾ながら低調であり、ゾーンが横に大きく広がるという悪い結果が出て来ている。

第3図は、学生選手権大会の傾向ゾーンであるが、日本選手権大会が男子、女子共に徐々に上昇のゾーンを形成しているのに反し、下降している傾向を示している。これは、学生選手のレベルが下がったともいえるもので今後の向上を期待する所である。

次に各年度別の平均得点を図にしてみたが、これは標準偏差(σ)迄を算出する方式で行った。標準偏差とは平均値を中心として上下に何点のひらきがあるかを調べ

第3図

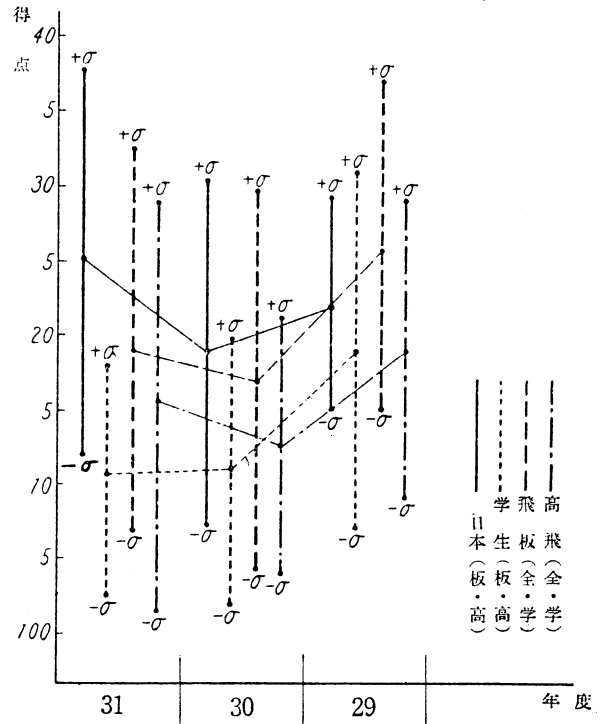


る方式である。今ある集団で標準偏差が小さく平均値の高い結果が出れば、この集団は高いレベルでまとまっていることを示し、一方同じ平均値でも標準偏差の大きい集団があれば、これは計算された平均値は同じでも上下の差が大きく各自の数値がばらばらに分散していることをあらわしている。分布の性質を考える時前者が好ましいのは当然である。

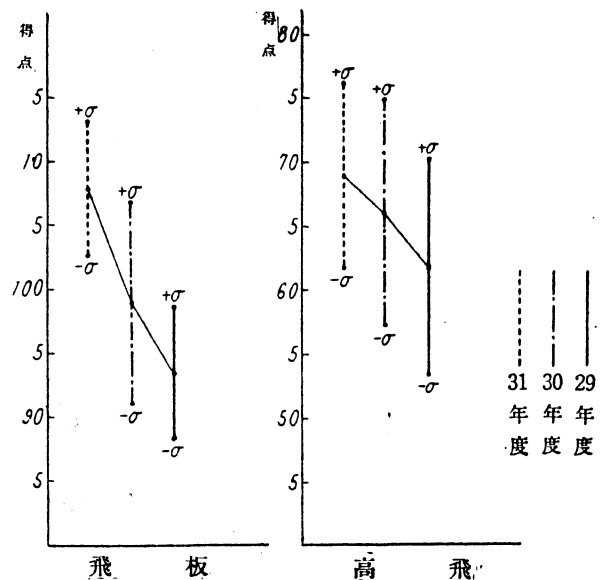
第4図は、全日本選手権大会男子、学生選手権大会別と同年度の飛板、高飛別とに分けて作図したものである。第1, 3図にも見られたが30年度の飛込全体が低調であったことと31年度の日本選手権大会の躍進ならびに学生選手権大会の下降が、ここにもあらわれている。

第5図は、全日本選手権大会女子のものであるが、ここでも女子のレベルが年々向上していることがわかる。

第4図



第5図



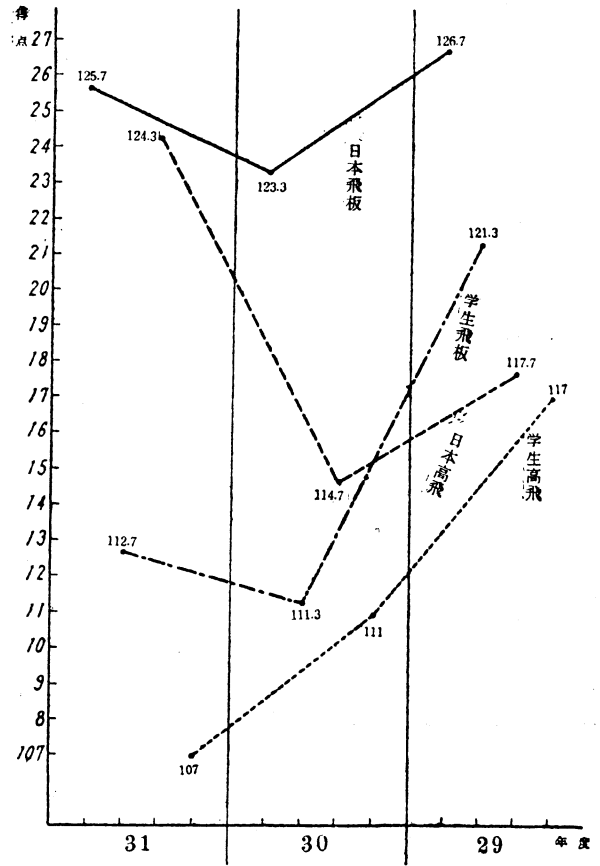
第6図は、第4図をさらに分析し得点の平均値だけを取り上げて見たものである。まず気の付くことは、各年

共、日本選手権大会飛板の得点平均値が上位にあるのと学生選手権大会高飛が低い平均値で、しかも下降していることである。つぎには選手権大会毎の飛板、高飛の平均値の差である。すなわち日本選手権大会は、31年が飛板、高飛共に実力が接近しており、29、30年は、飛板が圧倒的に優位である。学生選手権大会は、30年が平均値こそ低いが差がなく31年は、大きく開いている。

第1表は、日本選手権大会男子、女子および学生選手権大会の年度別による難易率の頻度をもらったものである。これは、制限飛、自由飛の別なく全体の頻度を調べたのであるが、各年共、男子は、1.7、1.8、2.1、2.2、2.3、の種目、女子の場合は、1.6、1.8、2.0の種目が多く飛ばれている。さらに難易率の合計を、制限飛と自由飛に分け競技会別に頻度をとったのが、第2、3、4表である。

勿論、制限飛は難易率の合計に規定があり、各人による得意、不得意とか作戦的なものもあるが、一応、制限に近い合計難易率になるように種目を選んだ方が高得点をするに有利であろう。

第 6 図



(第 1 表)

大会名 年度 種別 難易率	日 本 選 手 権 大 会												学 生 選 手 権 大 会						
	男 子						女 子												
	31		30		29		31		30		29		31		30		29		
	板	高	板	高	板	高	板	高	板	高	板	高	板	高	板	高	板	高	
6	5	1	1		3	2								2			2		3
5																			
4		5		4	1	4								4		4			3
3	7	9	6	10	5	9		1						4	6	5	7	3	8
2	16	8	16	10	13	9	8	4	6		3			17	11	15	10	13	8
1	7	4	8	4	9	5	3	4	3	3	1	3		10	4	9	5	9	4
2.0	4	6	6	2	7	2	11	1	7		8			4	4	7	3	12	2
9	4	7	5	7	5	6	6	5	5	5	5	4		6	9	5	7	5	7
8		10		13		11	6	11	5	12	7	9		9	1	12			14
7	11	1	13	3	14	4	2	1	1	1	3	1		9	1	11	1	13	5
6	3	6	3	4	3	3	8	8	9	7	9	5		5	8	4	4	4	2
5	3	1	2	2		3	8		9		9	2		3	4	3	4	1	3
4		2		1		2	2	1		2	1	6					1		1
1.3							6		5		4								

(第 2 表)

制限選択飛板 (男子)							制限選択飛高飛 (男子)						
年度 大会名 難易率	31		30		29		年度 大会名 難易率	31		30		29	
	日	学	日	学	日	学		日	学	日	学	日	学
5	1	1			1		11.0	4	2	2	3	2	2
4	2	1	2	2	3	2	9	1	1	4	2	4	3
3						1	8		2				
2				1	1	2	7	1	1				
1	1	2					6						
9.0	1		2		1	1	10.5			1			1
9			2	3			平均	10.93	10.87	10.93	10.88	10.93	10.87
8	1	1					※ 日は日本選手権大会 } を示す 学は学生選手権大会 }						
8.7		1											
平均	9.2	9.1	9.1	9.12	9.32	9.25							

(第 3 表)

自由選択飛板 (男子)							自由選択飛高飛 (男子)						
年度 大会名 難易率	31		30		29		年度 大会名 難易率	31		30		29	
	日	学	日	学	日	学		日	学	日	学	日	学
12.0	1						8				1	1	1
7						1	6					1	
5						1	3		1				
4	1	1	1				2	3		3			1
2		1					1	2	1	1			
1	1		1	1	1	1	9.0				1	2	1
11.0	2	2		1			9				2		1
9	1		1				8	1		1		1	1
8				1			7		1		1		
7			1	1			6		2				1
6			1		1	1	5					1	
5			1				4			1			
4		2					3		1				
3						1	8.2				1		
2				1	1	2	平均	9.1	8.76	2.98	8.92	9.12	9.05
10.0						1	※ 日は日本選手権大会 } を示す 学は学生選手権大会 }						
9.8				1									
平均	11.23	10.9	10.87	10.6	10.9	10.4							

(第 4 表)

日 本 選 手 権 大 会 (女 子)

制限選択飛板				制限選択飛高飛				自由選択飛板				自由選択飛高飛			
年計	31	30	29	年度	31	30	29	年度	31	30	29	年度	31	30	29
率合計				率合計				率合計				率合計			
5	1	1	1	5	3	2	1	7	1			6	1		
1	2		1	4		1	1	3		2	1	1	2		
8.0		3	1	3	2	2	1	1			1	6.0	1		
9	3		1	5.1			1	10.0				7			1
7.8		1	1	6	1			9		1		5		2	1
平均	8.07	8.06	8.06	4.4			1	8				2	1	1	
				平均	5.2	5.4	5.14	6	1			1		1	1
								5	1		1	5.0	1		1
								9.1	1	1		9			1
								6	1	1	2	8		1	
								8.5	1			4.3			1
								平均	9.75	9.6	9.42	平均	5.83	5.22	5.1

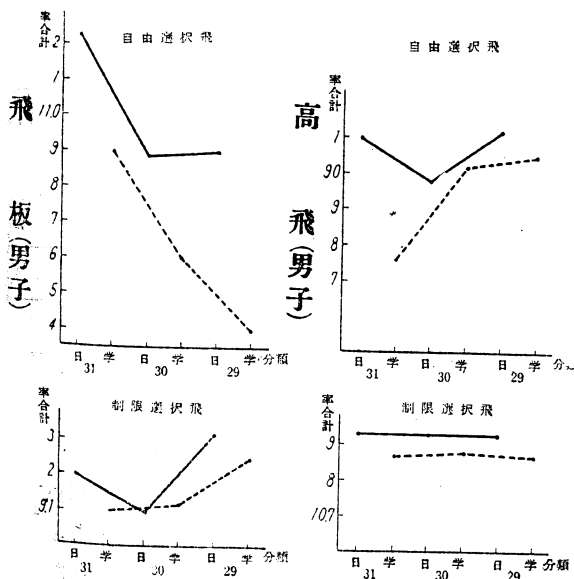
第7, 8図は、第2, 3, 4 表の平均を作図したものであるが、第6図と第7図とを比較してみると男子の得点と難易率の関係が良くあらわれている。すなわち、日本選手権大会が、学生選手権大会に勝っているのは、高率の種目を多く飛んでるともいえるし、31年が飛板、高飛の平均得点に差がないのは、難易率に大きな関係があると思われる。

しかし、学生選手権大会飛板が難易率に大きな進歩があったにも拘らず平均得点が下がっているのは、実力の伴わない高率の種目を飛んでいたといえる、が学生選手権

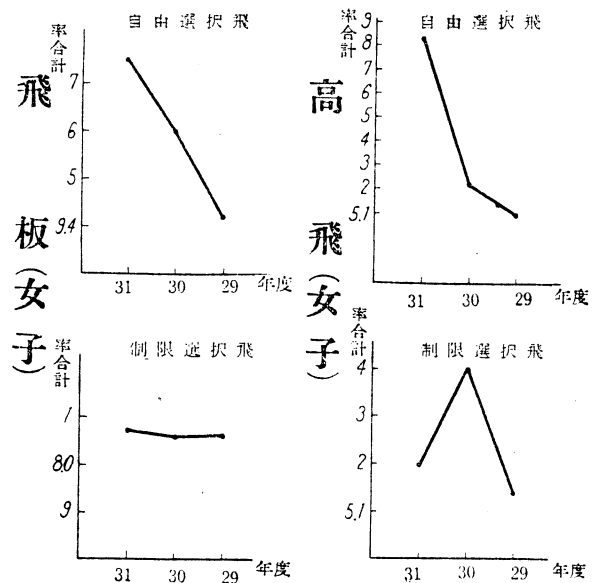
大会の将来を考えるならば、これは良い傾向にあるともいえるのではなかろうか。第5図と第8図と比較するならば、女子の関係がわかる。

以上は、過去3年間の飛込記録を資料とし得点、平均、難易率の関係を主体に調査した結果であるが、今後は、飛込関係者各位の御指導、御助言を得て一層充実した分析を行いたいと思う。(筆者は本連盟飛込委員)

第 7 図



第 8 図



飛 込 の 知 識

飛 込 委 員 会

とかく専門以外のものについてはうといものですが、水泳人としては我々飛込関係者は一様に競泳にも水球にも理解を深めたいと、そのほうの勉強にも余念がありません。

この「飛込の知識」は既に各加盟団体にも配布され、又、飛込講習会の時にも利用されて、まえがきにも記載の通り、その第一の目的達成に役立っておりますが、第二の目的としては連盟の機関紙の紙面をかり、多数の愛読者の目にふれて、更なるその目的を達成すると共に、現在競泳水球その他の各部門で活躍の選手及び役員の方々にも「専門外だ」ということなしに、これだけは知って頂きたい。その意味で紙面をかりました。

なお ① 内容は中学生・高校生にも読んで解って頂きたいために文を易しくしてあります。

② この説明で良いようでしたら今後の説明会、講習会の教材等にも利用下されば甚幸です。

(飛込委員 川島正次記)

競 技 の 説 明

ま え が き

これから飛込をはじめの人、少し経験した人、及び、経験はなくても、飛込に興味のある人々に少しでも飛込への理解を深めて頂くためにこの説明を書いてみました。そして、これが飛込発展の一助になれば幸いです。

なお、日本の飛込の規則は国際水泳連盟の飛込規則に従ってやっています。

種 類

飛込競技には飛板飛込と、高飛込の2種類がある。

飛 板 飛 込

高さ1m或は3mの弾力のある板(巾50cm,長さ5m)を用い、この弾力を利用して飛ぶ飛込で優美な点が特長で、板の弾力を上手に利用することがむづかしい。

高 飛 込

高さ5m或は10mの固定した台を用い、その高さを利用して飛ぶ飛込で、勇壮な点が特長であるが、高さに打ち勝つことがむづかしい。

種 目

飛込の種目は飛板飛込も高飛込も大きく分けると(群)次のようになる。

分類の基準は飛び出す方向と方法による。(回転には関係がない)

飛 板 飛 込 (5つの群に分れる)。

飛込の方向	方法	正式な呼び名	群
前向き	前向きに飛び込む(水面にむかった姿勢)	前飛込の群	1
後向き	後向きに飛び込む(水面は後にして)	後飛込の群	2
前向き	飛び出して→逆の方向に飛び込む	前逆飛の群	3
後向き	飛び出して→前向きに飛び込む(水面を後にして)	後踏切前飛の群	4
ひねりの入った飛込全部		ひねり飛込の群	5

(註) 図解をみること。

高 飛 込 (6つの群に分れる)

飛込の方向	方法	正式な呼び名	群
飛板飛込と同じ		前飛込の群	1
"		後飛込の群	2
飛板飛込と同じ		前逆飛の群	3
"		後踏切前飛の群	4
"		ひねり飛込の群	5
逆立からはじまる飛込全部		逆立飛込の群	6

(註) メルボルンオリンピック大会までは高飛込では5群に逆立飛込の群、6群ひねり飛込の群であったが今度(1957年)より上記の表の通りに変更となる。

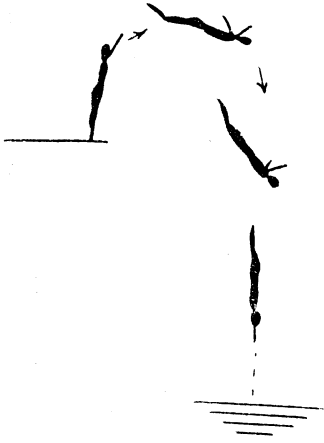
飛板飛込……………5 群
 高 飛 込……………6 群

なお、飛込の種目はFINA（国際水連）の規則で公認されてきまっています、自分勝手な種目を作り出して、それを競技に飛ぶことは出来ない。

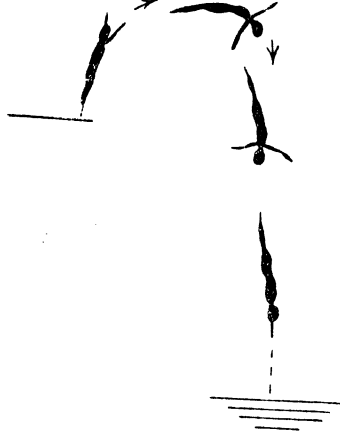
そして、公認された一つの種目はその飛込の難しさと易しさによって、それぞれ難易率という乗数がきめられている。

なお、この乗数は1.1より2.8までである。

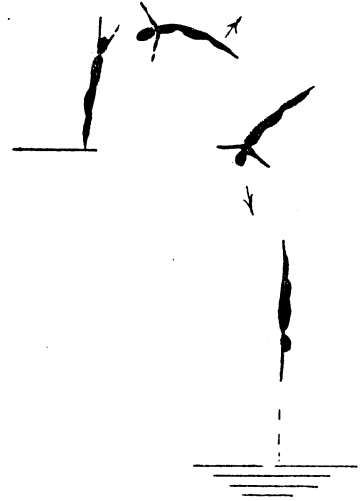
第 1 図



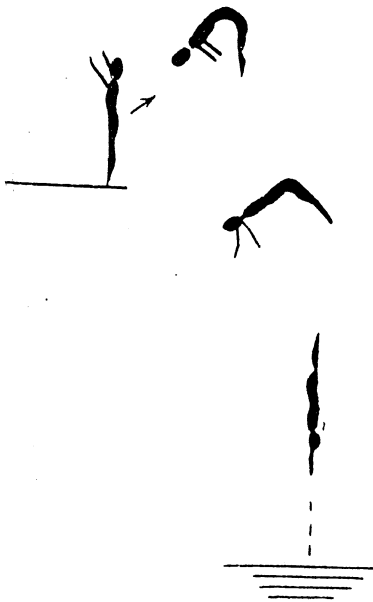
第 2 図



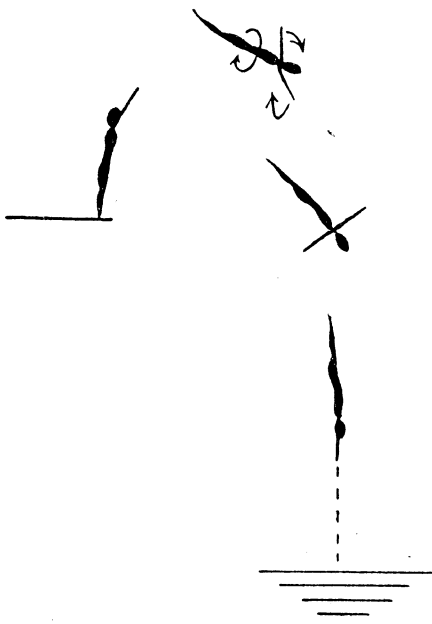
第 3 図



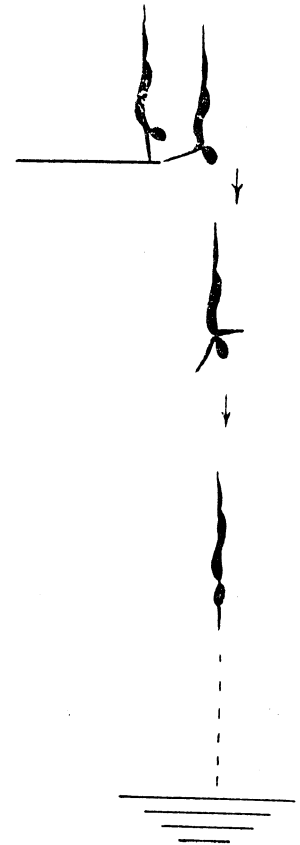
第 4 図



第 5 図



第 6 図



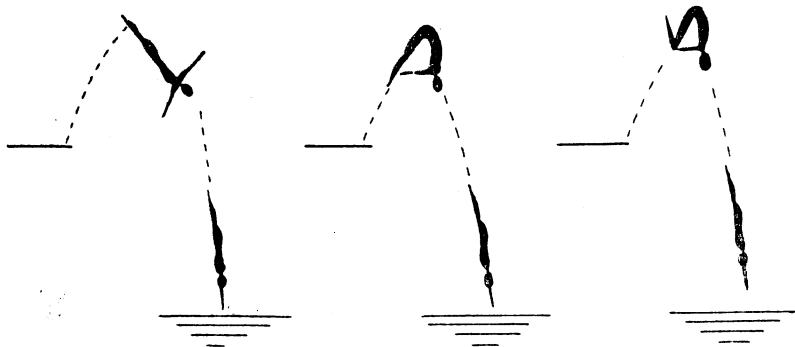
型

一つの飛込は更にそのかたちによって次の三つに分れる。

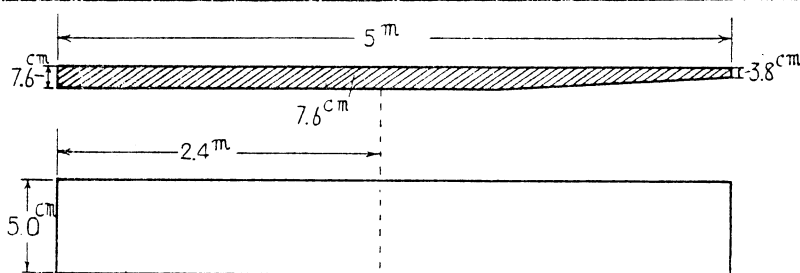
- (1) からだを伸ばしたかたち 伸型 (のびがた)
- (2) 腰を中心に二つにまげたかたち 蝦型 (えびがた)
- (3) ひざをかかえて一番小さくなったかたち 抱型 (かゝえがた)

例えば

- (1) 前飛 (伸型) (2) 前飛 (蝦型) (3) 前飛 (抱型)



飛板飛込に使用する飛板 (参考)



材質

- (1) 木製の飛板 檜又は米松
- (2) 金属製の " アルミニウムの合金
- (3) その他の " ガラスファイバー

なお、これらは各国で使用中の飛板であるが、日本では特に初心者用に次の飛板を試作、好評を得ている。

檜又は米松の木製飛板

長さ 3m625 巾36.5cm

(但しこの飛板は競技には使田されない)

飛込の良否 (どんな飛込か良いか、悪いか)

○審判官は

- (1) 助走 (2) 踏切 (3) 踏切より入水までの空中に於ける飛込の技術と美しさ (4) 水に入り具合
- 以上の諸点をみて点をつける。

採点の標準

審判員はその飛込の難易率 (前項の飛込の種目の項参照) に関係なく、その出来具合により大体次に述べる標

準によって採点する。

全く失敗したもの	0点
不満足なもの	1点又は2点
大体満足してよいもの	3点又は4点
満足なもの	5点又は6点
良いもの	7点又は8点
非常に良いもの	9点又は10点

(註) 各得点の間に0.5を用うことが出来る。

競技の役員

飛板飛込・高飛込とも

飛込競技審判長	1名	} 11名
審判員	7名	
記録員 (計算及記録)	2名	
通告員 (アナウンス)	1名	

を必要とする。但し競技により審判員を5名にすることが出来る。

計算方法

- ① 選手の飛込が終れば審判員の合図により審判員は先に述べた標準で自分の見解により点数を出す。
- ② 7名審判の場合は各審判員によって出された採点の内、記録員は最高の点 (最もアマイ点) と最低の点 (最もカライ点) をのぞき、残った5人の審判

員の点数の平均を出す。

- ③ 各種目には種目の難しさ、易しさによって定められた難易率があるから、その難易率を平均に乗ずる。
- ④ そしてその答がその選手の今飛んだ飛込の得点となる
- ⑤ 即ち

$$\frac{\text{最高, 最低を除いた 5人の審判の平均}}{\text{その種目の難易率}} = \text{その飛込の得点}$$

(註) このようにして出された一種目毎の得点の総合計の最も多い選手を優勝とする。(日本選手権の場合は10種目) 5人審判制の場合は単にこの5つの評点より平均を出す。

得点計算の裏ばなし

飛込競技を実際に見た人は、おそらく「どうしてあんなに早く得点が算出されるのだろうか」とふしぎに思ってしまうが、それは、これから述べる方法によって行われます。

選手の飛込が終り、各審判員の出された点数を計算員

は選手の申込んだ種目を書いた計算用紙にこれを記入する。そして最高と最低を一つずつ除く。

(例) 難易率1.9の種目の場合

① 7 7.5 8 7.5 6.5 7 とすると
 最高の為 最低の為
 除く 除く

②残った5人の点を暗算で平均を出す。

③平均は7.2である。

④平均が出ると得点早見表により難易率1.9の行の平均7.2の所をみれば、この場合の得点がわかる。

13.68がこの場合の得点である。

日本水泳連盟の競技会運営は非常に正確で、プログラム通りに競技を進行させてゆくことでは世界でも有名ですが、又、この飛込競技の得点計算についても非常に経験の深い人がやっているの、その早さに於てはこれ又有名です。

- ①アナウンス (種目選手名放送) ②審判長の合図
 ③選手の演技 ④各審判員の将点 ⑤計算員の計算
 ⑥得点の発表 (アナウンス)

以上の六つの仕事が、わずか40～45秒で終わります。

興味ある見方

今まで説明したことで、一応、飛込についてわかって頂けたと思います。

これだけの飛込知識を持って競技を御覧になると非常に興味深く試合を観戦出来ますが、更にもう一つつけ加えておきましょう。

どんな競技にもプログラムは必ずあります、水泳競技のプログラム中、飛込の競技のある場合は必ず次のような飛込得点表があります。

飛込順	氏名	所属	飛込の数だけの欄がある					得点 総合計	順位
			1	2	3				
			A	B/C	D/E				

A——1回目の得点を記入。

B——次の飛込の得点を記入。

C——AとBの合計を記入。

D——3回目の飛込の得点を記入。

E——CとDの合計を記入。以下同じ。

このように得点表に記入してゆくと、競技の途中で

- ①どの選手が今のところ何位か。
 ②甲の選手が次に何点とれば乙と同点になるとか。その他いろいろのことがすぐに解ります。

飛込をする時の注意

飛込にかぎらず、どんな運動をする場合でも、よく準備運動をしなくてはならないこととか、ふざけ半分にやるとはいけないとか、等々一般的な注意は皆さんが学校で充分教わったことですから、ここにとりたてては述べません。

その他に

プールの場合

① 正式の飛込プールでは心配ありませんが、深さをよく心得ないで、浅いプールで飛込むと思わぬけがをします。

(飛込プール以外のプールでの飛込練習は絶対に行ってはならない。)

② 先に飛込んだ人が水面に浮び上ってわきに寄ってから次の人が飛込むこと。

③ 飛び込む時には思いきって飛込むこと。途中で止そうとしたりするとかえってあぶない。

④ 自分勝手な飛込かたをすると危険です。

⑤ 高飛込の場合は更によく注意しないと大けがをすることがあります。

海の場合 (特に注意してほしいこと)

① 海はプールと違って潮の干満がありますから何時も同じ深さだと思って飛込んだが、ちょうど干き潮で浅かったために海底に頭をぶつけることがあります。

② プールと違って海の底には岩があったり、びんのかげら、くさった棒ぐいがありますから注意すること。

③ ボートからの飛込はしてはいけません。

以上で飛込の説明を終わりますが、わからないことがあったり、指導を希望する時は、日本水泳連盟の飛込委員会に申して出て下さい。

水連に某君から次のような暑中見舞がきました

「目下軽井沢高原の涼風を身に受け、一意専心FINAのルールブックを翻訳中、近頃は水連に顔をささぬためか、目方も一貫匄以上もふえ身体の調子も好調、つまり水連はケンタイ期の男性がウサを嗜らすところか、我が青春は多忙なり、云々」

こんな悪口を書いたのは誰だがお分りですか。若い人であることは間違いのないようです。

シンクロスイミング講習会報告

串 田 正 夫

3月25日から30日の6日間、東京都墨田区江東橋4丁目、江東楽天地温泉会館室内プールで春季の実技講習会を開催した。参加資格については、昨年泳力について制限をもうけなかったところ泳ぎのできない人が可成りあって指導に困惑した経験から、このたびは、各種泳法（速泳、背泳、平泳、横泳）が一通り出来る者とした。参加者は45名、その中、東京以外からの参加は20名で、京都2名、大阪8名、兵庫2名、石川2名、静岡3名、神奈川3名であった。参加者の大半は昨年度の講習会を受け、基礎的なものは既に出来ている人達なので、全く初歩の人には少し無理かと思われる日程ではあったが、予定した日程通り進めた。全然初めての人には少し不親切になりはしないかと心配したが、幸い助手の手も揃っていたので、無理なく充分所期の目的を達し得たと思う。現在のところ参加者の技術的個人差が大きいので指導計画も全く思惑で立てるといった具合で、実際指導に適格性を欠き、どうも中途半端な効果しか得られない結果に終り勝である。行々は、初心者指導は、せめてブロック単位で実施するようにし、中央での講習会は全日本のシンクロ競技会等と前後して行い、指導者の養成を兼ねたものにして行きたい。

七月下旬にもう一度計画している講習会は、大阪と東京と二会場に分けて開催することを考えている。

29日（金）の夜、小山専務理事の出席を願い懇談会を

開き、今後の計画、シンクロのあり方等を話し合い、またシンクロの基礎技術の映画を写し有意義に会を閉じた。この会にお忙しい中わざわざ上京されたシンクロ委員高橋清彦氏から昨年浜寺水練学校として米国から入手された基礎技術のフィルム（16ミリ）一式を水連に寄贈していただき、そのフィルムを主にして映写したのであるが、このフィルムは規定種目ごとにフィルムが輪につながっており、映写機にかけている間、何度でも繰り返し同じものが映写されるように出来ている。全部水中撮映で、演技は実に正確で、画面も明るく美しい。演技者は全米ソロ競技において4年間選手権を保留したビュラ・ガンドリング（Beulah Gandling）である。貴重なフィルムを寄贈していただいた御厚意を謝すると共にシンクロ普及のため有意義に活用したい。水連としては、いきなり競技種目としてのシンクロ・スイミングから手掛けた訳ですが、シンクロ競技の普及に先立ちそれ以前のリズム泳ぎの段階の必要を講習会等を通して痛切に感ずる。音楽に合わせて、着想面白く楽しく、美しく泳がせるという運動から先ず本腰を入れてやらなければ、アマチュアスポーツとしてのシンクロも健全な成長が望めないし、また、シンクロ・スイミングというものが一部の者の芸事に終わってしまうことを恐れる。この点、広く水泳指導者の方々の理解と協力をお願いしたい。講習会日程を参考まで

日 程 表

時 日	25 (月)	26 (火)	27 (水)	28 (木)	29 (金)	30 (土)
9.30	受 付	泳法の組み合わせ	スカリング	泳法と基本泳技との組み合わせ	足からのドルフィン	自由練習
10.00	開 講 式	スカリング	バレレグ	(音楽に合わせて)	スオードフィッシュ	受 講 者 技
10.30	泳 法 速 泳 背 泳 平 泳 横 泳 浮 身 スカリング	泳法とサマソールとの組み合わせ 平泳—前宙返り— 平泳—背泳—後宙返り— 背泳—後宙返り— 等	片 脚 片脚交互	基本泳技の組み合わせ サマソール ポーパス バレレグ ドルフィン キ ッ プ サマーサ	カテリーナ バラクダ	助 手 模範演技 ソ ロ デュエット チ ーム
11.00	サマソール 前宙返り 後宙返り	ポーパス バレレグの基礎練習	キ ッ プ	組 泳 基本泳技5種目を組み入れ3分位いの演技構成により、グループにわかれて行う。	組 泳 右に同じ	閉 講 式
11.30					午後5.30体協映画会、懇談会	

講 師 松沢一鶴、白山源三郎、串田正夫、高橋静子、宮崎まどか

助 手 牧田幸子、橋本紀子、松沢洋子、立石佳子、三浦洋子、渡辺久子、和田民子、富山要介、都甲璋子

(筆者は本連盟シンクロ委員長)

◎◎◎◎ 水球規則改正に (1957年) 就て ◎◎◎◎

水 球 委 員 会

水球競技規則は戦後既に数回改正されているが、1957年度の改正に於ても従来の方針即ち、(1) ゲームをフエヤーにすること、(2) ゲームをスピーディーにすること、の2点はそのまゝ引つがれている。

ゲームをフエヤーにするための改正としては、メジャー・ファウルの適用範囲を広め新しい条項が加えられており、スピーディーにするためには、時間の空費に関する規則の拡大解釈、退水を行わないペナルティー・スローの規定、得点後のゲームの再開の方法、等にわたって改正が行われ、ゲームの様相も相当の変化を生ずると思われる。従ってレフェリー・コミッティーとしては一日も早くこの新規則に慣れる必要があるので、特に重要と思われる改正点について、レフェリー・コミッティーとしての見解を述べ、審判員の笛の統一を計りたい。なお1957年水球規則は本連盟で印刷の上関係先に送る予定であるからこれと対照して見て頂ければよくお分りになると思う。

第6条 帽子 (D)

旧規則では番号を必要とせずとあったが親規則では続き番号をつけるようになった。

第7条 計時員 (役員) (N)

旧規則通りであるが後述の改正規則第18条 (K) 項を除くことになった。

第7条 (S)

ゴール・ジャッジの任務として新にゲーム開始の際選手がゴール・ラインに正しく並んだことを審判員に知らせることが定められた。

第10条 ゴールキーパー (H)

特に変わったのではないが、旧規則の最後の字句は他の項目に出てくるので除かれた。

第11条 開 始 (A) (B) (C) (D)

(A) 項は旧規則通りであるが、その中で得点後の再開は (B) 項により全く新しい方法を採用することになった。即ち他のボールゲームと同様に、中央線から得点された方の側のボールで再開するのである。

(D) 項はゴール・ライン、ハーフ・ライン、のいつれからスタートする場合でもプレイヤーの体はその線から前には出ないことになった。

前述の第7条 (S) 項によりゴール・スカラーの新しい任務が付け加えられて、開始時の正しい並び方を監視するのも同じ趣旨からであろう。

第14条 コーナー・スロー (D)

参照条項が加えられた以外は旧文同様

第15条 オーデナリー・ファウル (N)

本文は旧文と同じ。裁定として例にあげた文は改正されて範囲が広くなり、たとえ相手方より少い人数の場合でも、攻撃する意志のないボールの保持は時間の空費と判定されるのである。

第17条 メーチャー・ファウル (B) (C) (G)

新しく相手を なぐる ことが (B) 項につけ加えられた。メルボルンで数度不評事件があったためと思われるが本項の適用は特に厳格に行うべきであろう。

(C) 項は新しい事項である。極めて難解な条文で4y線内の反則であるがペナルティー・スローは適用されない。又これに対応した条項と思われる第18条 (B) 項と共に今後の研究課題である。

又旧規則では単に得点を防ぐために、ゴールポストを押え、又は動かすこと、とあったが新規則では範囲が拡大され線内に於て、確実に得点となると思われるような場合に犯したすべての反則となっており、この反則は直接得点者に対するものでなく、ゴールを動かしたり、洗めたり、その他の器物を動かしたりすること或は他のプレイヤーに対する反則を行って、その得点のチャンスをつぶすこと、等に適用されるものと思われる。この場合、相手方にフリースローを与え、反則者は退水を命ぜられるのであるが、第18条 (B) 項を適用して退水させない場合もあるわけである。(G) 項は但し書が付け加えられたもの。

第18条 ペナルティー・スロー (B) (F) (G) (J)

(B) 項は新事項であるが、これが又難解な条文で、

メジャー・ファウルにより、ペナルティ・スローが与えられても、相手方の退水を行わない場合を規定してあるもので、その判定は、競技続行のためその反則が退水を必要とする程重大であるか否かによるものとされている。これは多分に見物する人々のことを考えて退水によるゲーム中断の時間をなくして、ゲームをスピーディーに運ぶための改正であるのか、メジャー・ファウルの範囲が広められたために、メジャー・ファウルにも軽重があるものとしての処置であるのか、研究課題である。

(F) (G) 項 適用条項18条 (G) が文中に加えられたこと、及び (G) 項には裁定としてゴール・キーパーが退水になっている場合のことが加えられる。

(J) 項 計時員のハーフ・タイム、タイム・アップの笛は原則として直に効力を発するか、ペナルティ・スローを与えると同時に或はスローの終らぬ内に笛があった場合は、そのペナルティ・スローは有効に行われ、得点となる。ゴール・ポスト、クロスバーに当たった場合はその瞬間にデッド・ボールとなる。

以上が改正条項の主なものがあるが、水球規則1957年のプリント文中に、

(1) 第8条開始 (A) 項に whistle を笛声と訳し、他

の場所では呼笛と訳しているのは、呼笛と統一する。

(2) 第15条オーデナリー・ファウル (N) 項中に「攻撃以外にボール云々」とあるのは、without attacking の訳であります、これは日本語としあまり適当な言葉でないので、むしろこの文では「攻撃以外に」を除いた方が解り易いと思われるので、これを除いて「競技者が少い場合にもボールを不当に保持することは」と訂正すること。

(3) 第17条メジャー・ファウル (C) 項の「おそらく」とあるのを「確実に」と訂正すること。

(4) 第18条ペナルティ・スロー (B) 項では「反則者は必ずしも退水させられない」と「必ずしも」の一句を加えること。

上記の4点はレフェリー・コミッティに於て、協議の上訂正することになったから御諒承願いたい。

本年度は、改正規則に就ての解釈を一応記上の様にきめたが、更に8月国際大会に出場の機会を与えられたので、この機会に各国の見解や適用に研究してくるようになっており、又国内試合の実際上の立場を検討して結論を出す予定である。

(レフェリー・コミッティ、名取正也記)

水球チーム パリーへ

8月末からパリーで開催される国際学生スポーツ大会 (F. I. S. U.) に水泳としては水球だけ参加することとなっていたが今般そのチームが次のように決定した。

監督	鴫田 武	(日大OB)
選手	佐藤 賢助	(日大)
	小野 洋	(日大)
	田久保 徹	(日大)
	沢村 正一	(日大)
	高木 弘毅	(日大)
	浅沼 寛治	(中大)
	飯田 桂三	(日大)
	加藤 峰男	(早大OB)
	宮村 元信	(日大)
	佐藤 孝尚	(慶大OB)

一行の日程は次の通り

8月21日 羽田発

8月24日	パリー着、F. I. S. U.大会に出場
9月9日	パリー発、アムステルダム着、16日迄 オランダ各地で試合
9月17日	アムステルダム発
9月20日	羽田着
	× × × ×

○前号の F. I. N. A. 関係報告について

前号に安倍輝太郎氏の「F. I. N. A. 関係報告」をのせましたが、その後同氏から次のような諒解事項の申入れがありました。

「平泳の件で33頁S-3の所に手足とも左右対称にきまると書きましたが、これはその通りだったのに、F. I. N. A. の方で議事録から落してしまい、今回の新規則にも足の方が抜けてしまっています。

F. I. N. A. え申入れはしてありますが、又混乱を生ずるといけません、この点明確にしておいて下さい。」

早慶・立日明・中日の三対抗戦をみて

矢 道 洋 一

早 慶 対 抗

立・日・明 対 抗

昨年のオリンピックでローズ、グリーン等を向うに廻して大活躍をした山中（早）のその後の進境が最大の関心事であったが、期待にたがわずシーズン始めとしては申し分のない実力をみせた。400 mではかってない程の早いペースで飛出し200 mを2:10.7とメルボルンの決勝より0.9秒も早かった。その後は多少おくれて結局4:34.8に終わったが、1500 mの18:28.4と共に堂々たる記録である。1500 mのラップは別項の通りでまだペースをよく呑みこんでないといった感じだが、泳ぎこめば前半のペースで押し切れるのではないだろうか。中共遠征で調子を崩さなければ日本選手権大会での新記録が期待されよう。400 m, 800 m, 1500 mの世界記録を破ることは現在の彼の實力からすれば、それ程困難なことではない。

新人古川（慶）が200 mで古賀を抑えて勝ったが、これはむしろ古賀が200 mに弱すぎたといった方がよいかも知れない。

平泳の太田（早）は昨年のシーズン末期に潜水泳法に異常の進歩をみせたが、今年は腕をモモ迄掻き切る方法をそのまま残して頭を水面に出す方法を採用している。こうした工夫については敬意を表するが、オーソドックス泳法の根本推進力である足に一段の研究が必要ではないか。このままで記録を短縮出来るかどうか問題があるようだ。

長谷（早）の1:07.7は可もなく不可もなしといった所だが今年は余程頑張らないと、よきライバル富田（日大）に追いこされよう。

バタフライは山下（慶）が早の坂井を抑えたが、今年この種目に転向して、卒業した山下の分をカバーする仕事を引受けた坂井は荒削り乍ら将来性のある泳ぎだから夏秋とシーズンが深まれば、第一線級のし上る可能性は十分あるようだ。

今春、大野、青木、後藤などの大物を送り出した日大はより以上の新進富田、石原、北畑、増永、永井等高校の粒よりを迎えて陣容を整えた。従って日大の優勝は確実なものとなれ、期待はむしろ好調の石本のバタフライと泳法改正で問題となった平泳に古川、吉村等がどんな成果を見せるかであった。

バタフライは泳法が改正されたとはいえ、石本の在来の泳法は新ルールでも略通用するからルールによるハンディキャップは先づないものとみよい。石本は200 mで先づ申し分のない実力を発揮した。50 mを30.2, 100 mを1:05.2と好ペースで入り、後半は稍おちて2:25.4に止まったが、相当な好記録である。殊に前半のペースは彼がスプリントを増した証拠で、これでスタミナがつけば世界標準記録2:19.0を割ることはさして難事ではなからう。きけば今年の目標は100 m, 1分フラットだということから自信たっぷりという所だ。

問題の平泳は、矢張りすっきりしない点が多かった。古川が吉村に敗れたことよりは新ルールにふれるのではないかと思われる点が若干あったことだ。が今回はお目こぼしということで失格を免れたが、ルールはルールとして厳に守られるべきであろう。豊池（立）がピッチの早い立派なオーソドックスで前半をおさえたが後半つづかず、3位となった。併しオーソドックス泳法をはっきりみせてくれたことは何としても一服の清涼剤であった。

100, 200 は共に清水（立）の優勝する所となったが記録は両方とも芳しくない。立教としては短距離柳瀬の病気が残念という所だ。新人石原（日）が両種目共3位に入ったのは天晴な初陣振りといえよう。

400, 800 は昨年に比べて円熟味が一段と加わった林（日）が巧なレースを展開して一位をさらった。800 ははじめ新人北畑（日大）がリードし後半林と坂梨（明）の接戦となったがスプリントのある林に凱歌があがった

彼は昨年スレスの所でオリンピック選手から洩れたが、今年の名実とも第一線の選手となろう。野田（明）は泳ぎが崩れ元気もなく昨年夏頃のおもかげはさらにない。

背泳の富田（日）は期待された一人であるが、泳ぎが傾いて稍期待外れの感じ。自重を望むや切である。

中日対抗

第2回を迎えた中日対抗は、日大の優勢は動かないとはいえ、中大は日本学生の3位でもあり、今年も可なり新人を迎えて充実した陣容を整えているから相当のレースが期待された。だが蓋を明けてみると、中大は100m自で東野が1位となっただけで他はすべて日大に奪われ実力以下のレースをしてもらうも敗れた。これに反し日大は石本、増永の世界新記録を始め、新人北畑、石原の活躍平泳陣の圧勝など予想以上の健斗で得点は155対73と大きく開いてしまった。

前月の対九州戦で100m バタフライに1:01.5の世界新記録を出した石本は本大会でも期待にそむかず、100mで1:01.3の世界最高記録を出し、200mでも2:22.0の好記録を出した。この時のラップは50が30.4、100が1:05.2で三大学当時より少しおそいが、後半早くなったことはスタミナが増したことによるもので、彼の実力がシーズンが深まるにつれて向上していることを示すもので、100m 1分フラットもどうやら夢ではなさそうだ。石本の世界新記録におされて余り光らなかったが新人増永（日）の躍進もめざましい。名門佐伯鶴城の出身だが、ずっと石本が指導している関係で、泳法もそっくり同じ、石本がうねれば彼もうねるといった調子だ。体にも恵まれているし、努力家でもあるから、石本以上の大物になる可能性も十分ある。中大の新人開田も昨年から著しい進歩をみせている。

中大の敗因は先づ1500mから始まった。斗将野々下の優勝は誰もが疑わなかったし、北畑が始め急ピッチでリ

ードしたがそれでも野々下が何時かは出るだろうと期待した。それが700mで6mも開いてしまって、どうにもならなくなった。これに反し北畑は大野式の軽快なピッチではじめから飛ばして、野々下をよせつけず遂に18:48.9の大会新で優勝をさらった。誠に天晴れな初陣振りである。体格に恵まれていないが、大物の素質はあるようだ。池尻（日）は1500mで3位になったものの、山中とせった一昨年当時の元気はなく、泳ぎが重々しい。

レースとしては400mがよかった。林、北畑（日）、野々下、近藤（中）とほぼ同じような力のものがはじめから終り迄せって、結局スプリントのある林（日）が勝ったが、ここでも新人北畑が林、野々下等に対して堂々たるレースをいどんだ。

平泳は三大学対抗以後一段と厳格になったルールに対し古川等がどうとり組むかが課題であったが、一応適格な泳ぎをみせて2:44.9と相当な所迄こぎつけた。世界の標準記録は2:40.0だから更に一段の努力を要するわけだが、既にこれに近いのを出しているのが豪州、中共等にいるから、金メタルの古川としては、是が非でもこの関門に到達しなければ気がすまないだろう。100m平泳では杉山（日）が最初からリードして優勝したのは異色だったし、新人の永井も2:47.2と仲々よい記録を出しているので、今年の新ルールを中心として新人、旧人が混乱状態になり、そのドサクサにまぎれて無名の新人がスルスルと出現しそうな予感もする。

背泳では日大の富田、渡辺の両新人が1、2位をしめたが記録的にはとり上げる程のものではない。

日大は短距離の石原、中長距離の北畑、バタの増永、平泳の永井、背泳の富田、渡辺など新人の活躍が非常に目立っているが、これに反し中大は先づ1500mでつまづいてから、総崩れとなり、勝算十二分の800mリレーまで完全に投げってしまったのは誠に残念であった。総力を結集して試合に臨む訓練も又重要視されなければならない所以であろう。（筆者は本連盟常務理事・編集委員長）

第29回早慶対抗水上競技大会

神宮プール 6月2日 気温 23.0 水温 20.0

100m 自由形

1 古賀 学 (早)	58.8
2 古川 徹 (慶)	60.0
3 坂井 逸次 (早)	60.6
4 横地 森太郎 (〃)	1:01.1

5 金原 幸道 (慶)	1:03.4
6 佐藤 武司 (〃)	1:04.6

200m 自由形

1 古川 徹 (慶)	2:12.3 (1:02.8)
------------	--------------------

2 古賀 学 (早)	2:13.6 (1:02.6)
------------	--------------------

3 上本 正義 (〃)	2:16.3
4 横地 森太郎 (〃)	2:18.0
5 金原 幸道 (慶)	2:23.2
6 佐藤 武司 (〃)	2:23.5

400m 自由形

1 山中 毅 (早)	4:34.8 (1:01.4 2:10.7 3:23.2)
------------	----------------------------------

2	上本正義	(早)	4:57.6
3	小笠原勝司	(〃)	5:04.3
4	谷淵昌三	(慶)	5:04.8
5	万恭一	(〃)	5:49.3

1500m 自由形

1	山中毅	(早)	18:28.4
	1:04.5	2:16.0	3:28.9 4:42.7
	5:57.6	7:12.0	8:26.7 9:41.5
	10:56.9	12:12.5	13:28.7 14:44.3
	16:00.1	17:16.5	18:28.4
2	小笠原勝司	(〃)	20:37.5
3	谷淵昌三	(慶)	20:50.2
4	佐藤三郎	(早)	21:04.7
5	清川和宏	(慶)	23:32.2

100m 背泳

1	長谷景治	(早)	1:07.7
2	二宮英雄	(慶)	1:09.3
3	青山昌三	(早)	1:17.7
4	梶原慶一	(〃)	1:23.0

200m 平泳

1	太田勝	(早)	2:50.0 (1:19.0)
2	三井公	(慶)	2:52.3
3	堀井良造	(早)	2:59.0
4	三橋航	(慶)	2:59.1
5	河合実	(〃)	3:04.0
6	窪昭博	(早)	3:06.6

200m バタフライ

1	山下修	(慶)	2:40.4
2	坂井逸次	(早)	2:42.4
3	多田友久	(〃)	2:51.3
4	坂口孝之	(慶)	3:04.7
5	猪又寿	(早)	3:07.0

800m リレー

1	早大	9:08.7
	山中	2:09.3 (正式)
	上本	2:17.7
	横地	2:20.3
	古賀	2:21.4
2	慶大	9:38.0
	古川	2:16.5 (正式)

谷口	2:25.6
佐藤	2:23.0
金原	2:32.9

慶大	7点
早大	3点

飛込得点

早大	11点
慶大	1点

飛板飛込

1	岩橋弥生	(早)	64.82
2	山田慶二郎	(〃)	63.70
3	深沢昭夫	(〃)	50.53
4	水野雄之	(慶)	50.28
5	荻原正光	(〃)	47.15

高飛込

1	岩橋弥生	(早)	75.25
2	山田慶二郎	(〃)	65.14
3	荻原正光	(慶)	48.59
4	深沢昭夫	(早)	46.78
5	水野雄之	(慶)	31.86

400mメドレー・リレー

1	早大	4:31.7
	長谷	1:08.5 (正式)
	太田	1:17.3
	坂井	1:07.7
	古賀	58.2
2	慶大	4:34.1
	二宮	1:08.6 (正式)
	三井	1:18.0
	金原	1:08.8
	古川	58.7

競泳得点

早大	35点
慶大	13点

水球得点

第22回 立・日・明三大学対抗水上競技会

神宮プール 6月9日 気温 21.0 水温 20.0

100m 自由形

1	清水健	(立)	59.7
2	川岡長身	(日)	1:00.2
3	石厚勝記	(〃)	1:00.2
4	近藤至男	(立)	1:00.6
5	菅毅寿	(日)	1:01.8
6	樋口幸利	(立)	1:02.3
7	加藤守彦	(明)	1:02.3
8	山本修	(〃)	1:02.6
9	岡田洋一	(〃)	1:03.3

200m 自由形

1	清水健	(立)	2:13.2 (1:02.6)
2	川岡長身	(日)	2:14.1
3	石原勝記	(〃)	2:15.3
4	菅毅寿	(〃)	2:16.7
5	大谷康夫	(明)	2:16.8
6	近藤至男	(立)	2:17.7

7	金谷雅弘	(〃)	2:20.8
8	加藤守彦	(明)	2:21.4
9	岡田洋一	(〃)	2:21.9

400m 自由形

1	林利博	(日)	4:47.8 (1:05.5 2:20.6 3:35.1)
2	坂梨公昭	(明)	4:51.4
3	野田芳郎	(〃)	4:54.8
4	山口安司	()	4:57.2
5	大谷康夫	(明)	4:57.4
6	池尻月男	(日)	4:58.4
7	北畑昌英	(〃)	5:05.2
8	金谷雅弘	(立)	5:17.7

800m 自由形

1	林利博	(日)	10:00.0 1:07.9 2:22.7 3:39.1 4:55.4 6:12.6 7:30.8 8:47.3 10:00.0
2	坂梨公昭	(明)	10:00.3

3	池尻月男	(日)	10:14.4
4	北畑昌英	(〃)	10:16.1
5	野田芳郎	(明)	10:24.2
6	塚本利三郎	(〃)	10:31.5
7	山口安司	(〃)	10:50.2

山口	2:15.6
3 明大	9:15.1
野田	2:15.1 (正式)
坂梨	2:19.0
塚本	2:22.0
大谷	2:19.0

川元	1:13.6 (正式)
豊池	1:16.1
細間	1:08.1
近藤	1:00.4

3 明大	4:42.1
山下	1:11.0 (正式)
石井	1:20.4
長島	1:08.2
山本	1:02.5

100m 背泳

1	富田一雄	(日)	1:08.3
2	渡辺一夫	(〃)	1:10.2
3	山下栄隆	(明)	1:10.9
4	浜崎健	(日)	1:12.0
5	沼忠慶	(明)	1:13.0
6	鳥山忠良	(〃)	1:15.1
7	川元昭	(立)	1:15.5

400mメドレー・リレー

1 日大	4:31.6
富田	1:08.3 (正式)
古川	1:15.3
石本	1:07.5
川岡	1:00.5
2 立大	4:38.2

<u>得点</u>		
日大	98点	
明大	38点	
立大	36点	

200m 平泳

1	吉村昌弘	(日)	2:45.3
2	古川勝	(〃)	2:46.4
3	豊池守	(立)	2:48.8 (1:19.6)
4	増田勲	(日)	2:50.8
5	細谷広文	(立)	2:54.0
6	乾藤夫	(明)	2:54.5
7	石井弘	(立)	2:54.6
8	平井牧	(立)	2:56.6
9	伊達英則	(明)	2:57.1

第2回 日大 中大対抗水上競技大会

神宮プール 7月7日 気温 27° 水温 22.5°

200m バタフライ

1	石本隆	(日)	2:25.4 (30.4 1:05.2 1:43.6)
2	増永文昭	(〃)	2:32.7
3	俵口頼康	(明)	2:37.4
4	長島務	(〃)	2:38.3
5	細間輝喜	(立)	2:40.5
6	鏡原友義	(日)	2:41.6

100m 自由形

1	東野賢二	(中)	59.0
2	石原勝紀	(日)	59.6
3	鈴木英士	(中)	1:00.7
4	川岡長身	(日)	1:00.7
5	古谷武良	(〃)	1:00.9
6	浜田成亮	(中)	1:01.9
7	稲垣初穂	(日)	1:01.9
8	鈴木国城	(中)	1:02.0

3	北畑昌英	(日)	4:45.6 (1:06.0 2:18.0 3:32.5)
4	近藤照男	(中)	4:46.9 (1:06.0 2:18.5 2:33.4)
5	金谷修作	(中)	4:49.8
6	坪田暲	(〃)	4:53.5
7	新宅七郎	(日)	4:54.3
8	池尻月男	(〃)	4:55.0

1500m 自由形

1	北畑昌英	(日)	18:48.9
2	野々下耕嗣	(中)	19:09.5
3	池尻月男	(日)	19:17.1
4	坪田暲	(中)	19:33.8
5	新宅七郎	(日)	19:42.3
6	古川康之	(中)	19:53.2
7	山本雅敏	(日)	20:58.7
8	今井邦靖	(中)	21:53.2

800m リレー

1 日大	8:56.3
石本	2:12.4 (正式)
林	2:15.1
石原	2:14.6
川岡	2:14.2
2 立大	9:01.8
清水	2:13.3 (正式)
近藤	2:14.0
樋口	2:18.9

200m 自由形

1	川岡長身	(日)	2:11.0 (1:01.9)
2	林利博	(日)	2:12.0
3	石原勝紀	(〃)	2:12.8
4	近藤照男	(中)	2:13.0
5	金谷修作	(〃)	2:14.2
6	東野賢二	(〃)	2:15.6
7	菅毅寿	(日)	2:16.9
8	浜田成亮	(中)	2:16.9

400m 自由形

1	林利博	(日)	4:44.3 (1:06.2 2:18.2 3:32.5)
2	野々木耕嗣	(中)	4:44.4 (1:06.3 2:18.0 3:32.5)

北野	畑々木	池尻
1:05.8	1:06.3	1:08.0
2:16.9	2:18.7	2:22.6
3:30.5	3:33.0	3:39.1
4:45.5	4:48.9	4:56.0
6:01.1	6:05.2	6:13.6
7:16.6	7:22.2	7:30.9
8:33.2	8:39.9	8:48.2
9:49.5	9:58.0	10:05.3 (正式)

11:06.6	11:17.3	11:23.1
12:23.4	12:36.3	12:41.2
13:40.3	13:54.8	14:00.0
14:57.6	15:13.3	15:19.6
16:15.9	16:32.0	16:38.8
17:33.3	17:51.8	17:57.8
18:48.9	19:09.5	19:17.1

100m 背 泳

1 富田 一雄 (日)	1:07.4
2 渡辺 一夫 (〃)	1:10.4
3 田口 利寛 (中)	1:10.6
4 青山 欣旦 (〃)	1:10.7
5 中村 隆一 (〃)	1:11.3
6 徳永 誠哉 (日)	1:12.1
7 浜崎 健 (〃)	1:12.3
8 中村 慶介 (中)	1:13.4

200m 背 泳

1 富田 一雄 (日)	2:28.6	(35.6 1:10.6 1:49.9)
2 浜崎 健 (〃)	2:34.9	
3 徳永 誠哉 (〃)	2:35.1	
4 渡辺 和夫 (〃)	2:35.5	
5 青山 欣旦 (中)	2:37.4	
6 田口 利寛 (〃)	2:38.0	
7 中村 隆一 (〃)	2:41.4	
8 中村 慶介 (〃)	2:42.4	

100m 平 泳

1 杉山 明男 (日)	1:15.6
2 古川 勝 (〃)	1:15.9
3 木村 基 (〃)	1:16.0
4 塚本 尋務 (中)	1:16.7
5 永井 正員 (日)	1:16.9
6 三木 圭三 ()	1:17.4
7 辻野 浩 (〃)	1:19.2

8 西前 義貞 (〃)	1:20.1
<u>200m 平 泳</u>	
1 古川 勝 (日)	2:44.9
2 増田 勲 (〃)	2:45.4
3 永井 正員 (〃)	2:47.2
	(1:18.8)
4 辻野 浩 (中)	2:49.5
5 宮下 宗重 (日)	2:49.7
6 三木 圭三 (中)	2:52.0
7 袴田 道生 (〃)	2:58.1
失格 塚本 尋務 (中)	

100m バタフライ

1 石本 隆 (日)	1:01.3	29.0 世界新
2 増永 文昭 (〃)	1:03.4	世界新
3 開田 幸一 (中)	1:04.2	
4 関 武久 (〃)	1:10.2	
5 太田 一郎 (日)	1:10.7	
6 古沢 征史 (〃)	1:11.0	
7 東 恭弘 (中)	1:11.5	
8 岡本 進 (〃)	1:15.2	

200m バタフライ

1 石本 隆 (日)	2:22.0	(30.4 1:05.9 1:44.1)
2 増永 文昭 (〃)	2:27.9	
3 開田 幸一 ()	2:31.7	
4 関 武久 (〃)	2:40.0	
5 太田 一郎 (日)	2:46.2	
6 東 恭弘 (中)	2:47.7	
7 古沢 征義 (日)	2:53.2	
8 岡本 進 (中)	2:57.2	

高校 800m リレー

1 中大 杉並	9:51.4
高橋	2:30.3
松井	2:35.3
与五沢	2:30.0
坪田	2:15.6
2 日大 一高	9:52.7
平田	2:25.3
和田	2:36.3
中島	2:28.8
一色	2:22.3

800m リレー

1 日大	8:48.1
林	2:13.1 (正式)
石原	2:11.3
川岡	2:10.9
石本	2:12.8
2 中大	8:57.8
近藤	2:14.0 (正式)
金谷	2:11.4
東野	2:17.4
野々下	2:14.9

400mメドレー・リレー

1 日大	4:30.4
富田	1:08.9 (正式)
杉山	1:14.3
石本	1:06.3
川岡	1:00.9
2 日大	4:32.6
青山	1:11.3 (正式)
辻野	1:17.5
開田	1:03.4
鈴木	1:00.4

得点
日大 151 中大 73

<p>古川ら4選手に世界記録公認証</p> <p>1956年に世界記録を公認された古川勝、古村昌弘、石本隆、長沢二郎の4選手に今般公認証が到着したので7月7日の中・日対抗を機会に小山専務理事から授与された。</p> <p>古川 勝(日大) 吉村 昌弘(日大)</p> <p>100y 平泳 1:01.4 220y 平泳 2:36.2</p> <p>100m 〃 1:08.2</p>	<p>200m 〃 2:31.0</p> <p>220y 〃 2:31.9</p> <p>長沢二郎(早大OB) 石本 隆(日大)</p> <p>200m バタ 2:19.3 200m バタ 2:20.8</p> <p>220y 〃 2:19.4 220y 〃 2:21.6</p> <p>古川、吉村、石本3選手の記録は昭和30年10月1日富士高校プール(25m)の日大記録会で、又長沢選手の記録は昭和31年春米国で作られたものである。</p>
--	---

梅沢先生の先見

戸 田 主 雄

大正11年頃だったでしょうか。外は寒風が電線をならしているのに、このインドアプールは湯気がもうもうとして裸の別世界です。9月のインターカレッジやオールジャパンの行事が終って緊張から解放されて、ほんの一休みすると、河童はジッとしていられないで水恋しいの気持ちにかられます。こうして在京の河童はここ神田のY.M.のプールに集ってくるのです。特に夕方の5時から7時頃が、各大学の連中がひしめきあって、雑魚は割込む隙間もなく、徒らにプールサイドにたたずんで一流選手?のフォームを心ならずも見学せざるを得ないことになるのです。まあその当時の常連といえば、明治の和久(山)さん、森(後に中村)さん、藤本さん、早稲田の(小高)賀茂さん、鴨下さん、西本の竜さん、帝大の松沢さん、拓大の(小野田)一さん、高師の堀さん、宮畑(当時の新進でした)立教の(本井)あんちゃん、(斎藤)巍洋さん、美校の杉(田)忠(次)さん……その他大切な人を洩らしているかも知れませんが等々きら星の如くです。まあ秋から冬にかけての全日本在京大学選手のコングールといった形を呈したものです。

そこに年の頃25,6才でしょうか、2人の裸紳士がときどき現れます。2人そろってあらわれるのはめったにありませんが、その1人は太鼓腹の飯田光太郎氏、もう1人は中肉中背の梅沢親光氏です。飯田さんの水泳界における逸話は数多いでしょうが、ここでは梅沢さんの逸話を御披露したいのです。

「君ね、ノルマンロスという奴はね、800mの直線コースを泳いでゴールに入ったとき、自分のコースの内じゃあーんと入っていたというから驚いたものだね。」……などと、お勤めの帰りにちょいちょいこのプールに立寄っては、当時のスイマーに理論的アドバイスやら所感を談笑裡にひれきしたものです。飯田さんと梅沢さんと水泳界(特に東京における)といった方がよいでしょう)との関係は既に皆さん御承知のことですし、いまさら新鮮味も感じられませんが、当時のように水泳人の層の薄い時代に、勤め帰りにプールによっては、各大学の選

手と理論的な水泳清談を交して若い人達の面倒をみていたことは、たとえ好きな道であったにしても貴重なことと思います。

その梅沢さんが、ある日このプールサイドで、

「ねえ、諸君!こうして皆の泳ぎをみていると、松沢と和久の泳ぎが一番フォームとしては無理のない機械的な泳ぎだと僕は思うんだ。だがどうもスピードがないね。やっぱり若さというか、馬力というか、がなきゃあ、駄目なんだろう。そこでだ……これは僕の夢の夢かも知れんし、諸君に笑われるかも知れないけど、あの魚の泳ぎ方ね、あれは手も足もなく、ただ体のひねりというか、反動というかで……シュツ、シュツと全くきれいに早く泳げるんだが、(梅沢さんは更に熱を入れて)そりあ、人間と魚をいっしょにするなんて無茶なことは判り切っているんだが、ここなんだ、諸君に考えてもらわなければならぬのは。そりあ今年や来年のことではないかも知れないし、或は10年、20年あとのことかも知れないが、なにかこの魚のひねりからヒントを得た泳ぎがあらわれるんじゃないのかな、僕はどうもこのひねりが気になって仕様がななんだよ、……ハハハ」

当時の梅沢さんの笑い方を知っている人には、あの引込むような笑声に、又別な親しみを感じるでしょう。そしてそれから30年たった今日、バタフライのドルフィンキックには、何か梅沢さんの先見を感じるのです。愚鈍な私はバタフライが蛙脚のとき、「飛魚泳」とでも名付けられていたら、もっと前に先生の「先見」を御披露していたかも知れませんが、当時先生のお話を伺った人が次第に少なくなっているのです、思い出したまま綴ってみました。(筆者は立大OB、鹿島建設勤務)

(先般、中共遠征から帰った早大の吉本監督の話によると、中共には手を全くつかわず、腰から下のひねりだけで泳ぐ選手がいるそうです。しかもこの選手は体を横にして、あたかも魚の尾のように下半身をうねらせて泳ぐことができるそうですから、ますます梅沢先生の考えに先見の明があったといえましょう。宍道)

日本水泳指導者協会の再発足

白 山 源 三 郎

指導者協会を立て直さねばならないとは、水連普及部で長い間の要望であった。25年以上続いた指導者講習、その後の指導者検定、そして資格をとった指導者の為の自主的、相互援助の為の指導者協会、その協会が同じく四半世紀の歴史を持つた、戦争の激烈と共に開店休業となり戦後10年捨てられていたのは残念であるとは誰も同感であった。茲に漸く名簿の整理が出来、復興第1回の総会を持つことの出来たのは何といっても喜ばしい。

本会は特に水泳に関する行事を行う事を目的とする団体ではないが、水泳指導者のみが組織を作り、相互に連絡し、指導者としての資質の向上を測り、日本水連の目的といえる、国際的に有力な選手を養成することと、水泳人口増大の為の水泳普及につき、各々その持場に於て呼応して努力し様とするのである。水泳の発達は他の同種のものと同様、よき施設と、よき指導者に負う所大きい。指導者の大切であることは本協会の意義の大なることを示すものである。本会が千数百名の会員を有する筈であり乍ら連絡のとれた会員は半数に過ぎない。更に古い会員の発足に努めると共に、新会員の増加をも計り、本会の目的具現に努めると共に本会を強力な団体に育て上げたいものであ



る。本会各位の此上の御協力を希望する。

○

指導者協会が再発足した喜びは創設時代の今はない先輩を思出させる。且て会長であった石本巳四雄博士、飯田光太郎氏、水連会長だった末弘徹太郎博士、太田正隆医博士の方々が之である、又本協会の事務を引受けて永く蔭の努力をされた渡辺延氏に感謝をすると共に今どうしておられるかを思う。猶再編成に努力された小泉正延氏初め発起人の各位にも此機会に感謝の意を捧げたい。

(筆者は本連盟評議員)

水泳指導者協会の回顧と再発足経過

小 泉 正 延

この度の水泳指導者協会の再発足に当り、会員の一員とし又その準備委員として、創立当時から現在に至るまでのことを、かいつまんで述べてみたい。

当協会が日本水泳競技連盟の外郭団体として結成されたのは、昭和13年であって、創立総会は同年4月22日神田一ツ橋の国民体育館で盛大に開催された。幹事長は水

連普及部長石本巳四雄博士であり、幹事は松沢一鶴氏渡辺延氏(庶務幹事)小林高志氏外5名で斯界の御歴々がこれにあたられていた。会の目的は「会員相互の親睦をはかり水泳の普及を計る」とあり、規約も全く簡単なものであった。

然しその頃は、オリンピック2連勝もあり、国民一般は

水泳熱の高まっている頃であって、中央の指導者はもとより、地方の指導者も非常に張り切っていた感じられた。協会の事業としては、会員から会費を徴集し、バッヂ、水着用水連マーク等が渡され、水連機関誌「水泳」が送られ、その他講習会研究会等が催される都度通知があった程度であった。当時の機関誌には「水泳指導者協会欄」があり、協会の事業はもとより、会員からの寄稿等も載せられてあった。年に8回送られてくるその「水泳」号を読む事が楽しみの一つであり。それだけでも、中央との連絡は充分とれており、われわれ地方の指導者を励まし指導してくれる唯一のものとなっていた。

更に又水連会長の末弘徹太郎博士よりは指導者に対し「国民皆泳の実を挙げうるか否かは一に諸君の双肩にかかっている」と、激励の言葉などあり、地方にあるものは、何か一つの責任をもたされ、微力ながらも「水連の趣旨を体し、われわれは国民皆泳運動に参画しているんだ」というプライドもあって、「どんな障害とも斗いぬこう」というハリキリもあった。

その頃協会員は東京をはじめ近県の同志がよく水連事務所に集り、互いに親しみ合って、協会の事業に参画し更には小学校水上競技連盟の全国的組織に或はラジオによる全国皆泳大会、学童遠泳大会等々、水連普及部と呼応してよくやった。又水連の機構の中に国民学校委員中学校委員なども設けられ、会員の中から多数選ばれて、その方面の仕事も担当された。

当日は水泳指導者養成講習会が全国各地で催された。或年などは加盟団体の推薦により、優れたものは、資格証も与えられたことなどもあり、協会員は年々増加の一途をたどった。

戦争がはじまって、小中学校の体錬科に水泳が正課になり、又壮丁皆泳必成訓練が全国津々浦々に実施されるに及んでは、これらの指導者を大量につくらねばならぬ事となって、そのために全国の会員は殆んどもれなく、府県又は文部省、厚生省より講師の委嘱をうけて働かされたので、会員各自の力を百パーセント発揮出来た。当時は水泳場に困って臨時水泳場が海や川や湖沼につくられ又全国各学校には防火用兼水泳プールの施設等が計画されていた。これらについても、その相談役となり推進力となったのは地方の指導者であった事と思う。

昭和17年には幹事諸賢の努力によって、協会の名簿が府県別に整理され、愈々協会の組織もかたまり、事業も更に活発化されようとした。その後昭和18年には各種スポーツ団体は統合され大日本体育会となつてからも地方の指導者養成はもとより、各大学の水泳の選手には検定の上資格を与えた等資格者の大量生産もあった。

この様にして「国民皆泳」の実も近い将来には必ずや実現されるという喜びに勇んだのであったが、それも2年余で昭和19年よりの戦争の激烈と終戦で全く、その望みも絶たれた状態となった。

終戦後は暫く所謂虚脱状態となり、一般のスポーツは勿論振わず、その後小中学校の対抗競技は廃止され、そのためか正課である水泳も遺憾ながら全く低調をかこつ様になった。

一方会員の住所も大方変更し、生死すら不明の状態ともなった。昭和23年に水連より往復ハガキを以って、一応従来の名簿によって住所調べを行ったが殆んど返し戻されてしまったとゆう事であった。以来はこうした調べも徒勞であると、協会復活も望まずとなり、又この仕事にかかろうとする意慾も失われたやに思われ、荏苒冬眠状態をつづけたのである。然しながらこの間に於ても水球普及部では文部省と共催の下に、全国各府県から受講者を集め、年々講習会を行いそれに引続いて検定試験も続けられていた。それ故会員数は年々加わり、全国に配置された状態となつていった。しかもこれらの地方の資格者は恐らく幾多のあい路と斗い、これを克服して水泳普及に精進している筈ながら、その実態も中央でつかむよしもなく、たとえ中央にて国民皆泳大会を行つても地方会員がどれだけ呼応して行っているかもわからぬ状態であった。これではならぬと、中央はもとより、地方からも協会復活の声は次第に高まって来た事も当然なことである。それには先づ会員の住所調べからはじめ、その対象をはっきりつかまねばならぬと、普及部でも一決し、昭和29年には各加盟団体宛にその調査を依頼したのであったが十分な効果をあげられなかった。更に又31年1月水連の了解を得て代議員会にかけて、加盟団体の援助を得、又、もよりもよりに尋ね或は問い合わせること数ヶ月漸くにして、全会員1147名中、700余名の住所を知ることが出来たのである。

茲に始めて再発足の見通しもついたので昭和31年夏、普及部内に特別委員が設けられ、その具体策の構想に着々準備が進められて来たのである。然し少数の意見ではならぬと、今年初め東京都内及び近辺の会員30余名にその準備委員を依頼し、多数の意見を徴し、更にその中より14名が推されて、総会の準備委員会が設けられたのである。

その後何回となく相談を重ね、或は規約草案の討議に事業計画案に今後の運営の構想に、或は水連との交渉に委員全員は総力を以って当つてきたのである。幸にして水連各位の承認と援助を得て、漸く3月31日総会を開く運びとなつたのである。

而して総会の通知と共に現住所の確認を得してその回答を求めたところ、現在 457 通の回答あり、未回答のもの 428、住所不明のため返し戻されたものが 114 通である。回答中多数からは再発足に対する熱心な要望と意見

更には賛辞と激励の言葉が寄せられた事は今後の発展も想われて、御同慶に堪えぬ次第である。

(筆者は本連盟普及委員)

日本水泳指導者協会総会

加 藤 紀 夫

日時 昭和32年3月31日(日)午前10時~午後4時
会場 岸記念体育会館(お茶の水)
来賓 (5名) 原 正一氏, 松沢 一鶴氏, 古橋広之進氏
阿部壮次郎氏, 菊田 保孝氏

出席会員者 69名(受付順 敬称略)

(愛知県)

奥平 幸夫

(滋賀県)

武田 昭雄

(山梨県)

今井 文雄, 日野水一郎

(富山県)

高田 秀男

(三重県)

森 薫

(石川県)

大崎 一子, 越寄都世子, 原田 信雄, 中上 正

阿部由起子

(栃木県)

岡村 勝敏, 阿部 鎮, 佐瀬 良一

(秋田県)

加賀谷耕三

(千葉県)

山田 輝彦

(静岡県)

磯部 安司

(埼玉県)

加藤 敬一

(東京都)

米谷 義郎, 吉岡 正雄, 岡田 幸雄, 小倉 良介

加藤 紀夫, 三枝 美朗, 内藤 徹, 中野 守一

塩田 粹, 岡本 良作, 熊谷 武男, 牧野豊一郎

乾 康子, 伊東ヒデ子, 大川 宏, 内山 章
北原 啓夫, 吉田 勝平, 大山 昇, 内藤 隆之
横田 杉夫, 金田平八郎, 入江 常子, 鈴木 誠
芳賀善次郎, 鈴木 菊雄, 寺尾甚太郎, 木崎 文男
若井 完之, 大森 昭典, 西田 八郎, 本田 恒夫
佐藤 忠義, 山浦 一郎, 左近允正矩

(神奈川県)

白山源三郎, 小泉 正延, 茅根 寛明, 鈴木 祐一

牧田 勝, 磯谷 誠一, 今井 正七, 関根 勇一

野尻 正幸, 上杉 光昌, 石川 了司, 岩下 聆

佐々木祐治

会長挨拶(白山源三郎会長)

日本水泳指導者協会が発足するという事は、日本の水泳の指導の推進となるものと期待されている。水連の外廓団体として、指導者相互の自主的な連絡と切磋により、指導の技術の向上に資することを使命とし、地方の方々と手を携えて進んで行きたい旨の挨拶があった。

経過報告(小泉正延氏)

戦前、戦後に分けて経過報告がある。前掲載につき略す。

議 事

1. 規約改正の件

旧規約の主旨を生かし出来るだけ簡略に巾のあるものとし、時代にそよう改訂。尙、旧称水泳指導者協会を日本水泳指導者協会と改称

2. 役員承認の件

規約により会長が指名、承認される。

会 長 白山源三郎

副会長 内藤 徹

幹 事 小泉 正延(庶務幹事)

今井 正七, 加藤 紀夫(会計幹事)

米谷 義郎, 吉田 勝平, 牧野豊一郎, 岡本 良作

小倉 良介, 桑 保太郎, 金田平八郎, 三枝 美朗

日本水泳指導者協会規約 (昭和32年4月1日実施)

第1条 この会は日本水泳指導者協会といい、日本水泳連盟指導者資格をもつものを会員とする。

第2条 この会の事務所は日本水泳連盟内におく。

第3条 この会は会員相互の融和連絡をはかり、研究をたかめ、水泳及び水上競技の健全な普及発達を図ることを目的とする。

第4条 この会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会の開催
2. 会報の発行
3. その他必要な事業

第5条 この会に左の役員をおき、任期は1年とし再任はさまたげない。

1. 会長
2. 副会長1名
3. 幹事若干名
(内庶務幹事1名、会計幹事2名)

会長は日本水泳連盟普及部委員がこれに当

る。

副会長、幹事は会長が指名する。

4. 顧問 この会に顧問をおくことができる。顧問は必要により会長が委嘱する。

第6条 1. 会長は会務を統括し会を代表する。
2. 副会長は会長を補佐し会長事故ある時はこれに代る。

3. 幹事は庶務、会計等の会務を処理する。
4. 顧問は会長の諮問に応ずる。

第7条 この会は毎年一回定期総会を開き、必要に応じ臨時総会を開く。

第8条 この会に支部を設けることができる。

第9条 この会の経費は会費及び日本水泳連盟補助金その他の収入をもってあてる。この会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第10条 この会の細則は別に定める。(以上)

熊谷 武男, 伊藤 裁子, 伊藤ひで子

3. 事業計画

今回に限り便宜的に新役員が「会員の声」等を取り入れて立案し、会報により会員に発表する。

4. 会費は原案年300円が可決される。

以上を以て議事を終り、来賓の祝辞をいただいて閉会。昼食後、松沢、古橋両講師の講演を聴き、一時間に亘る有意義な懇談の後、メルボルン大会の映画を観覧して散会。

総会並びに協会に寄せられた「会員の声」を要約すると

会費——必要なだけ、十分にとってほしい。

総会——夏休中に、或は全日本等の競技会に結びつけて開いてほしい。

組織——支部は県単位でなく、地域毎に早急に設けてほしい。

地方水泳団体との協調を考えてほしい。

専門部会等も考えてほしい。

事業——会報を月又は年何回ときめて出してほしい。

(月1回、年2回等の希望あり)

「水泳」協に会の欄を設けてほしい。

技術面の記事をのせてほしい。

出版物の紹介をしてほしい。

研究会、見学、講演会等は地域毎に、小ブロックで、

無資格者のための計画もほしい。

教員養成学校で水泳を身につけることを義務づけるよう、しかるべき機関に働きかけてほしい。

プール設置の促進等の運動をしてほしい。

研究活動——河川における水泳指導の研究を望む。

中央にかたよらぬ活動を望む。

その他——資格の活用を計ってほしい。

資格を権威あるものにして行きたい。

推薦制度がほしい。

資格について外部に周知させてほしい。

無資格者に活動の場を考えてほしい。

懇談会で出た意見希望の主旨

指導者の養成を中央、地方を一体として考え、支部の組織化と充実をしてほしい。

国体等の場合を利用して大いに地方の指導者を激励してほしい。

女子の水泳に力を注ぎ、全国の母親が泳げるようにしたい。

情報宣伝活動を活発に。

プール建設の資料を斡旋してほしい。

資格基準を再検討し、指導者を多数養成していきたい。特に地方の指導者養成に力を入れてほしい。

指導者のマーク等を考え、これをつけさせることにより、誇りと励みを持たせる等を考えたい。

(筆者は本連盟普及委員)

第6回日本泳法研究会

山 口 和 夫

期 日 昭和32年4月13日(土)、14日(日)

場 所 伊東温泉プール

研究泳法 神伝流(大洲) 参加者 38名

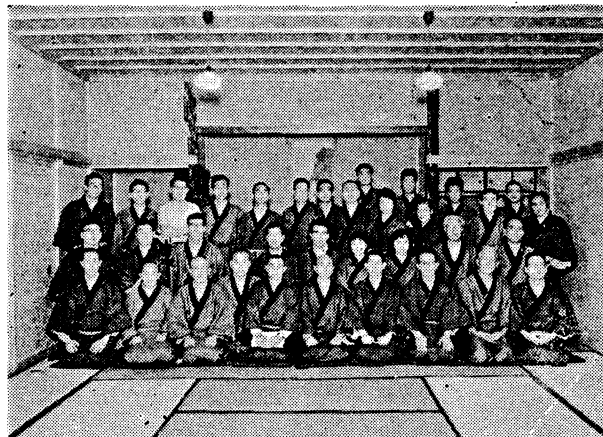
2月23日、24日に行われる予定であった第6回日本泳法研究会は、折悪しく全国理事会及び代議員会と重なり延期をやむなくされていたが、各方面からの強い要望と会場伊東温泉プールの厚意により、遅れ馳せながら実施出来たことは、我々日本泳法を研究・愛好するものにとって誠に喜ばしいことであった。今回は神伝流(大洲)を研究テーマとして実施されたが、開催日が延期変更されたためか出席者は例年にくらべて若干少なかった。しかし昨年奈良天理プールで行われた第1回日本泳法大会を一つの契機として、古来から日本に継承されてきた各流派の泳法、所謂日本泳法についての研究熱が最近とみに盛んになって来た折から、このように一つの流派を研究テーマとした泳法の歴史的及び技術的な深い研究こそ、その必要が痛感されるのである。

第1日(4月13日)

午後4時伊東温泉プールに集合、参加者は到着早々プールにつめかけ、これから行われる神伝流を中心とした泳法に対する話題がプール内随所で取交されるといった熱心さであった。午後6時30分全員広間に集り、今回の招待者である大洲水泳協会師範菊池芳邦氏及び田中寅雄丸、高橋将夫両氏の紹介の後、まず小山専務理事より日本水泳連盟の本年度の全般的な行事予定の報告があり、ついで白山普及委員長より普及委員会関係の諸行事予定が報告された。夕食後、菊池師範より、神伝流の起源、大洲神伝流と松山神伝流との関係等を含め神伝流の今日に至るまでの歴史について説明がなされ、更に第2日に行われる泳法の紹介説明と約2時間にわたっての畳の上の水練に全員熱心に耳を傾けた。最後の質疑応答では大洲に於ける神伝流と他の地方に分れ発達した神伝流との泳法上の差異、特に游方「真・行・草」について多くの質問、論議がなされた。

第2日(4月14日)

午前7時プールに集り、前夜に引続いて菊池師範の説明のもとに、田中、高橋両氏によって実技が示された。ここで斎藤武五郎氏より、前夜の質疑応答の際論議の中心であった大洲の神伝流とその他の地方に於ける神伝流



の泳法上の差異を比較研究するためにも、是非他の神伝流の泳法を見たいとの発案があり、原正一、松沢一鶴、斎藤武五郎、花房和市、菊田保孝の諸氏をはじめ、数人の神伝流の人々の泳法も行われた。その後各自個人的な指導、研究、質問が行われ、9時30分実技研究を終了した。例年はプールの湯気のため視野が狭くなり実技研究に支障をきたすことがあったが、今回は早朝でもあり換気がよかったためか非常にコンディションがよく研究の成果を充分にあげることが出来たようである。ただ惜しいことには水深が不足のため一部の泳法を完全に説明することが出来なかった点は残念であった。朝食後記念撮影に引続いて懇話会が開かれたが、ここでもプールに於いて見学研究した泳法を中心とする話題に花が咲き、11時50分散会となった。

以上が日本泳法研究会の大体の模様であるが、このような研究会が古式各流派の泳法を正しく保存発達させることは勿論、このように世界に類のないほど古い且つ豊かな歴史を持つ日本の水泳を研究することを通じて水泳に対する深い理解を養い、ひいては水に対する知識を培かって「国民皆泳」の大目標を目指して進む上に役立つことを念願するものである。(筆者は本連盟普及委員)

出席者 (招待者) 菊池芳邦、田中寅雄丸、高橋将夫(水連本部) 小山賢之助、宮畑虎彦、白山源三郎、牧野豊一郎、吉田勝平、多治見祐孝、松沢一鶴、小林高志、佐々木救、斎藤武五郎、菊田保孝、西本秀雄、小泉正延、笹島恒輔、斎藤達男、山口和夫(東京都) 原正一、花房和市、小森栄一、森岡達男、金子幹子、反町富次、倉沢新蔵、清水明、渡辺重朗、押本孝一(千葉県) 川名正直、神尾謹輔、飯塚邦之、加藤辰二(静岡県) 石渡戸春雄(浜名湾) 山須里子、竹山幸子、西尾ちさと(石川県) 原田信雄



オリンピック以後の海外の様子をながめると、オリンピックのための永い異状な緊張の後なので、どの国も記録的には驚く程のことはなく聊か弛緩状態にある様だ。極く少数の選手を除いては本来の調子を見せていない。然し等閑にふせないのは、各国が次のオリンピックに対してか、若い選手に多くのチャンスを与えて、新進の抬頭に意を用いている点である。

我々も早く具体的に乗り出してローマに備えなければならぬ。(川田、坂本)

オーストラリア (ジュニアとあるのは16才以下)

ニュー・サウス・ウェールズ選手権は1月12,16,19日の3日間北シドニー、オリンピックプール(55y塩水)で開催され、世界新3,長水路世界最高1,その他多くの豪州新が生れた。

110y自 1. デヴィット 55.2長世最高

(旧 100mヘンリックス 55.4
110y " 55.5)

2. チャプマン 57.2

220y自 1. ローズ 2:06.5

2. デヴィット 2:07.3

3. チャプマン 2:10.0

440y自 1. ローズ 4:27.1世新

(旧マーシャル 4:28.1短水路)

110y 220y 330y
2:11.1 3:20.0

途中計時 4:25.9世新 1:02.5

(旧コンノ 4:26.7短54)

2. ハミルトン 4:40.5 (差25y)

3. ウインラム 4:40.5

4. チャプマン 4:43.4

880y自 1. ウインラム 9:49.4

2. ハミルトン 9:50.5

1650y自 1. ローズ 18:04.5世新

(旧自己 18:26.5)

800m 880y
9:36.2 9:39.0

1500m途中計時 17:58.8

2. ロジャース 19:55.3

110y背 1. モンクトン 1:05.3

220y背 1. モンクトン 2:22.1

110y平 1. ギャザコール 1:15.3

2. フォード 1:17.4

220y平 1. ギャザコール 2:45.7

2. フォード 2:56.0

110yバタ 1. ウイルキンソン 1:04.7 18才

220yバタ 1. ウイルキンソン 2:31.8

440y混泳 1. ウイルキンソン 5:36.8

バ 1:11.9 背 1:28.1 平 1:39.8 自 1:17.0

110y自 ジュニア 予選 シプトン 59.5 15才

グドマン 59.7 14才

220y自 ジュニア 1. コンラッツ 2:12.2 14才

2. キサーン 2:14.1 14才

440y自 " 1. コンラッツ 4:39.9

2. キサーン 4:45.1

クイーンズランド州選手権1/28ブリスベーン(50m)

100m自 1. デヴィット 55.8

200m自 1. " 2:11.0

100m背 1. タイラ 1:03.3

100m 優勝後デヴィットは記録を狙って独泳54.6世界新(旧クリーヴランド 54.8 短 54)途中 100y 49.1の長世界最高(旧ヘンリックス49.9)を樹立した。彼はオリンピック以降56.0を破ること6度目である。50m 24.8の出足は凄い。豪水連のフィリップス氏は「デヴィットの成功はターンの完成にあり、世界のスプリンター中最もターンの上手な選手である。」と語っている。

ビクトリア州選手権 (50m)

オリンピック後ハンガリー選手の大半は各国に亡命したがアッツ、ザボルスキーは豪州に留まっているらしい。又マーシャルは自動車事故で死亡直前の彼の最後のレースである。

100m自 1. アッツ 59.5

200m自 1. マーシャル 2:12.3

400m自 1. コンロイ 4:53.6

2. ザボルスキー

800m自 1. アッツ 10:16.6

100mバタ 1. " 1:05.3

200mバタ 1. マーシャル 2:32.3

南豪州選手権 アデレード (55y) 2月上旬

110y自	1. ヘンリックス	58.8
220y自	1. ギャレット	2:12.0
440y自	1. "	4:45.7
880y自	1. "	9:57.8
1500m自	1. "	18:18.0

2/7 クイーンズランド州 メリーボロー (50y)

100y背	タイラ	55.6世新 (旧オヤカワ55.7 短54)
-------	-----	------------------------

全豪選手権 キャンベラ (55y) 2/16~23

110y自	1. デヴィット	56.6
	1. ハンター	59.6
220y自	1. ギャレット	2:11.6
	2. ウイルキンソン	2:12.6
440y自	1. ギャレット	4:40.6
	2. コンラッツ	4:45.5
	3. ウインラム	4:49.8
880y自	1. ギャレット	9:45.9
	2. コンラッツ	9:52.0
	3. ウインラム	9:58.8
1650y自	1. ギャレット	19:04.4
110y背	1. モンクトン	1:03.9
	2. タイラ	1:05.0
220y背	1. モンクトン	2:23.5
	途中 200m	2:22.6
	2. タイラ	2:30.0
110y平	1. ギャザコール	1:14.8
	2. ミドルトン	1:15.9
220y平	1. ギャザコール	2:40.9
	2. "	2:45.6
110yバタ	1. ウイルキンソン	1:03.8
220yバタ	1. "	2:33.2
	2. アンダーソン	2:40.1
440y混泳	1. ギャレット	5:37.8
	2. ウイルキンソン	5:47.4
440y混継	1. N. S. W.	4:23.8
880y継	1. N. S. W.	9:11.6

(コンラッツ, ウインラム, ウイルキンソン, デヴィット)

440y自	ジュニア	1. コンラッツ	4:46.3
		2. キサーン	4:49.9

3月上旬 メルボルン オリンピック プール (50m)

100m自	1. ヘンリックス	59.6
200m自	1. ローズ	2:08.6
	2. ギャレット	2:09.0
	3. コンラッツ	2:14.5
100mバタ	1. アッツ (洪)	1:04.3

3/15 メルボルン オリンピック プール (50m)

100m自	1. デヴィット	56.5
	2. ヘンリックス	58.2
	3. ハンター	58.9
100m背	1. タイラ	1:04.6
	2. モンクトン	1:07.5
	3. ヘイヤーズ	1:09.0
100m平	1. ギャザコール	1:14.2
	2. ウェストン	1:17.3
100mバタ	1. アッツ (洪)	1:03.9
	2. ウイルキンソン	1:04.6

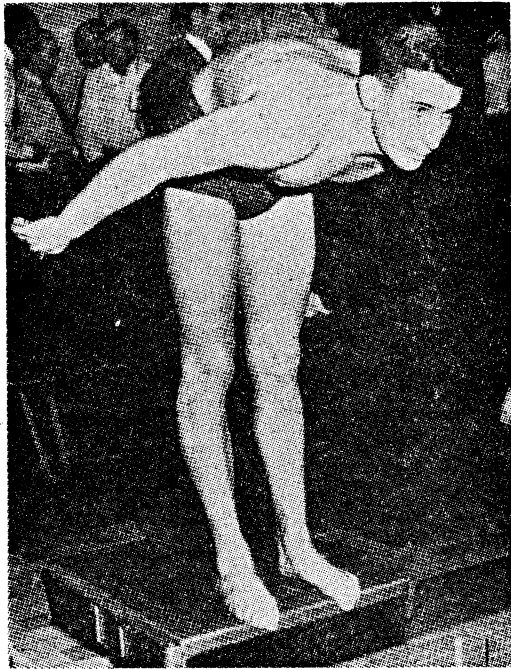
○豪州チームはフィリピンに招待され平泳以外は全部優勝した。

3/2~3 フィリピンオープン選手権 リザールプール (50m)

100m自	1. デヴィット	56.3
	2. アラバニ (比)	59.1
200m自	1. デヴィット	2:09.5
	予選 バボル (比)	2:13.3 (比新)
400m自	1. ウインラム	4:40.7
	2. サイラニ (比)	4:50.9
	3. バボル (比)	4:52.1
1500m自	1. ウインラム	19:05.1 (予 18:58.2)
	予選 サイラニ (比)	19:44.8
100m背	1. タイラ	1:03.4
	2. カイコ (比)	1:09.8
200m背	1. タイラ	2:26.2
200m平	1. サーマニ (比)	2:49.3
	2. カレン (比)	2:49.8
100mバタ	1. ウイルキンソン	1:03.5
	予選 エリザルデ (比)	1:09.3 (比新)
200mバタ	1. ウイルキンソン	2:31.9
	2. エリザルデ (比)	2:42.1
800m継	1. 豪 (デヴィッド, ウイルキンソン, ウインラム, タイラ)	9:20.9
100m平予選	シャルマーニ (比)	1:15.2

○ J. マーシャル死去 オーストラリアの世界的選手で日本にも来たことのある J. マーシャルは本年1月25日メルボルンで自動車事故にあい1月30日に死亡した。(享年26才)ここに深く哀悼の意を表する。

彼は彼の水泳経歴を通じて19の世界記録を保持しオリンピックにはロンドン, ヘルシンキ, メルボルンと連続3回出場した。17才のときはじめて豪州選手権大会で活躍翌年ロンドン大会に出場, 400m自で3着, 1500m自で2着をしめた。その後アメリカに渡りエール大学に入学してキップス氏の指導をうけ200m以上の世界記録を殆ん



ど書きかえた。昭和25年第3回日米対抗の時日本に來たが、その時は余りさえ古橋君に敗れたが、当時マーシャル対古橋の一戦は一大センセーションをおこしたものであった。ヘルシンキ大会では400m、1500mに出場、400mは決勝に残れなかったが1500mでは8位をしめた。メルボルン大会では200mバタフライに出場5位をしめてそのベテラン振りを發揮した。水泳の外にフットボール、クリケット、テニス等にも長じ又陸上も中距離ランナーとして活躍していた。

アメリカ

12月頃から4月上旬の室内選手権までは春の室内シーズンで、凡ての種目がヤード制であるため、吾々がなじんでいるメートル制から考えると記録的にピンと来ないので、特に優秀なもので参考にし得るものだけに止めた。水路は殆んど25yである点に御留意願いたい。

- 2/6 200y混 ジェコ(エール大) 2:08.6米学新
 2/9 100y自 モーリス(アイオワ大) 49.5
 2/9 200y背 クレップ(ノースカロライナ大) 2:06.3
 2/22 400y継 エール大
 (コーンウエル, アームストロング, アンダーソン,
 51.9 49.2 48.7
 オープリー) 3:19.5(米学新)
 49.7
 2/22 220y自 ウールジィ(インディアナ大) 2:03.8
 同着ハンレー(ミシガン大) 2:03.8
 2/24 400y継 エール大
 (ロビンソン, アームストロング, アンダーソン,
 51.6 49.2 48.4
 ジェコ) 3:18.3世新(旧エール大 3:21.3 1955)
 49.1

- 2/24 500y自 ブリーン(コートランド教育大) 5:10.2
 米新(旧マーシャル 5:12.0 1950)
 2/27 220y自 ロジャー, アンダーソン(エール大)
 2:02.7(世新)
 3.2 400y継 エール大
 (オーブリー, アームストロング, アンダーソン,
 50.2 48.9 48.6
 ジェコ) 3:16.1米新
 48.4
 3/3 200y混 タナベ(インディアナ大) 2:08.9米学新
 3/7 220y自 1. ハンレー 2:01.5世新
 2. ウールジィ 2:01.8世新
 (旧ワードロップ 2:03.4 1955)
 50y 10y 150y 200y
 ハンレー 24.3 51.5 1:19.0 1:48.6
 ウールジィ 24.8 52.5 1:20.8 1:50.1
 3/9 100yバタ ウィギンス(オハイオ州大) 54.3世新
 (旧自己 54.4)
 3/9 440y自 ウールジィ 4:30.9
 3/9 100y自 ダイヤー(ハーバード大) 49.0
 3/28~30 全米学生 チャペル・ヒル ノース・カロライナ大学プール
 1500m自 1. メイヤーズ 19:04.8
 2. エリソン 19:05.5
 3. ロビンソン 19:32.5
 200yバタ 1. ジェコ 2:09.5米学新
 2. ホンダ 2:12.4
 3. ハーモン 2:14.9
 200y混 1. ジェコ 2:09.4米学新
 2. モーリス 2:10.5
 3. タナベ 2:10.8
 100y平 1. ディアソン 1:03.0米学新
 2. ホプキンス 1:03.2
 3. ヤップ 1:03.8
 220y自 1. ウールジィ 2:02.5世新
 2. ハンレー 2:03.8米学新
 3. ファーレル 2:07.3
 100yバタ 1. ジェコ 54.6
 2. タナベ 55.6
 3. ハーモン 55.5
 100y自 1. ダイヤー 49.4
 2. モーリス 49.7
 3. ファーレル 50.0
 ハンレー失格
 200y平 1. ホプキンス 2:20.0大会新
 2. シンク 2:23.4
 3. ヤップ 2:23.3

- 400 y 自 1. ヴールジョ 4:38.2
 1. クレメンズ 4:43.9
 3. エリソン 4:44.2
 400 y 混継 1. ミシガン大 3:50.0
 1. ミシガン州大 3:50.0
 3. インディアナ大 3:50.7

- 得点 1. ミシガン 69 2. エール 61
 3. ミシガン州 52 エール大失格

4/4~6 全米室内選手権 フロリダ州デイトナ, ビーチ
 1500m 自 1. ブリーン 17:34.0 米新(旧自己 17:44.5)

2. ハイリック 18:55.0
 3. エリソン 19:05.6
 220 y 背 1. マッキニー 2:19.6
 2. クレップ 2:26.6
 3. プラウデ 2:28.7

- 100 y 自 1. ウィギンス 50.9
 2. ハンレー 50.8
 3. アームストロング 51.5

- 400 y 混 1. ジェコ 4:39.2
 2. ハイリック 4:43.9
 3. バートン 4:53.6

- 220 y 自 1. ハンレー 2:05.1
 2. ブリーン 2:07.6
 3. アームストロング 2:07.5

220 y 平 1. サンギリー(キューバ) 2:37.3
 (24才医学留学生 オリンピック7位)

2. レインク 2:40.9
 3. ファッチェン 2:41.2

- 100 y バタ 1. ウィギンス 55.0
 2. ジェコ 55.9
 3. ドレイク 56.6

- 440 y 自 1. ブリーン 4:31.5
 2. ハンレー 4:43.8
 3. ノードストローム 4:44.6

- 220 y バタ 1. ネルソン 2:25.5
 2. ジェコ 2:26.6
 3. バートン 2:29.5

- 100 y 平 1. サンギリー(キューバ) 1:04.0
 2. レインク 1:04.9
 3. フリードマン 1:05.5

個人得点 1. ブリーン 19

チーム得点 1. ニューヘブン 68

2. 北カロライナ 63

3. インディアナポリス 40

○ ヨルジック プロに転向, オリンピックのバタフライ優勝者ヨルジックは, 1月12日スプリング・フィ

ールド大学の体育教官に就任し, アマチュア・スポーツマンとしての生活に終止符を打った。

○ 背泳のマッキニー選手は1月6日ベッドフォード(ペンシルバニア)で自動車運転中, トラックと衝突して負傷したが生命に別条ない。

○ 世界女子飛込界の第一人者パット・マコーミック夫人

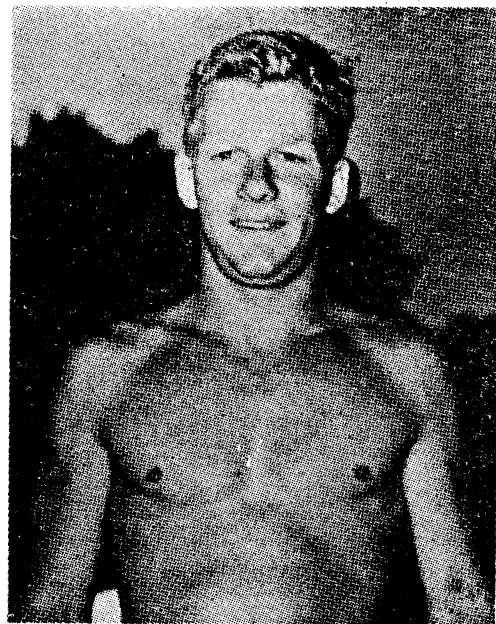


(マコーミック夫妻)

人は1956年度のサリヴァン賞を獲得した。この賞は米国アマチュア・スポーツマンで最も優秀な成績をあげ, 又は立派なスポーツ精神を発揮した選手に授与されるものである。

○ ヘルシンキオリンピックの飛板飛込で第2位, メルボルン, オリンピックでは優勝したB・クロートワーシーはプロ・コーチになると発表した。彼がA.A.U 主

事フェリス氏にあてた手紙に「私は自分の最大の希望を実現したから, 職業と



(クロートワーシー)

してプロ・コーチに進んで, アマチュアスポーツの発展に努力したい」といっている。

ヨーロッパ

2/7 スウェーデン フォルスグレンスカ

100m 平 1. ユネフェルト 1:12.7

2/上旬 ブレーメン 25m

100m 背 1. ミエルシュ 1:04.3 西独新

2/中旬 オランダ ナールデン (25m)

100mバタ 1. リ ッ ト ン 1:06.7
 111 79
 2/中旬 西独対英 ハイデルスハイム (25m)
 100m自 1. ウイリアムス 2:10.1
 2. ブリーカー (独) 2:10.2
 200mバタ 1. ウエーベル (独) 2:23.8
 5. シ モ ン ズ 2:29.2
 3. メーゼル (独) 2:34.6
 400m混継 1. 西 独 4:16.9
 2. 英 国 4:20.6
 100m自 1. フェール (独) 57:2
 2. ウイリアムス 57.2
 3. マッケチニー 58.2
 100m背 1. ミエルシュ (独) 1:04.4
 2. サ イ ク ス 1:05.0
 3. リ グ ビ ー 1:06.5
 200m平 1. ラデマッヘル(独) 2:40.3
 2. ボディンゲル(独) 2:43.0
 3. デ イ 2:44.0
 400m継 1. 西 独 3:53.0
 2. 英 国 3:53.4
 2/8 オランダ ナールデン
 100m背 1. デ ジ ョ ン 1:06.4
 2/下旬 ミュンヘン (25m)
 200mバタ 1. ウエーベル 2:27.0
 2. メーゼル 2:32.4
 3/10 ウクライナ リヴォフ (25m)
 400m混泳 1. アンドロソフ 5:09.4世新
 (旧ストルザノフ 5:15.4)
 3/18 モスコウ
 400m混泳 1. ストルザノフ 5:08.3世新
 (バ 背 平 自)
 (1:06.8 1:19.5 1:30.2 1:11.8)
 3/上旬 アムステルダム (25m)
 100m背 1. スワイゼン 1:06.2和新
 2. チスコット 1:06.7
 3/中旬 ベルギー ブラッセル (25m)
 200m平 1. デスミット 2:41.9
 3/上旬 ドイツ パレンベルグ (25m)
 100m自 1. フェニル 56.8独対
 (フィッシャー 1936)
 2. ボー マ ン 57.1
 3/12 プレーメン 25mプール
 100m自 1. ボー マ ン 56.9
 4/4 デンマーク42対ノールウェー45
 コペンハーゲン (25m)

100m自 1. クロー (諾) 58.4
 2. ラルソン (丁) 59.1
 400m自 1. ラルソン (丁) 4:43.6
 2. クロー (諾) 46.1
 100mバタ 1. クロー (諾) 1:08.6
 200m平 10 グライエ (丁) 2:32.5欧新
 (旧ユニチエフ ソ連 2:33.0)
 2. エルマルク (丁) 42.9
 800m継 1. 諾 9:00.7 2. 丁 9:07.7
 400m混継 1. 丁 4:30.2 2. 諾 4:43.0
 5/1 から世界記録は長水路一本建となるに鑑み、フランスは2月末フランス長水路最高記録を発表した。平泳とバタフライは考慮中なのか未発表であるが、800混泳は8:45.9という立派な記録があるのに9:00.7としているのは不可解である。
 100m自 56.2 シ ャ ニ ー 1947
 200m自 2:08.3 ボ ワ ト オ 1956
 400m自 4:30.7 ボ ワ ト オ 1952
 800m自 9:38.2 ボ ワ ト オ 1952
 1500m自 18:25.2 ボ ワ ト オ 1956
 100m背 1:04.2 ク リ ス ト フ 1956
 200m背 2:25.0 最高タイム
 400m継 4:00.0 最高タイム
 800m継 9:00.7 T. O. E. C. 1947
 西独選手権 ビエルフェルド (25m)
 100m自 1. フ ェ ー ル 57.6
 2. ボ ー マ ン 57.9
 3. コ ー ラ ー 57.9
 100m背 1. ウェドラー 1:07.1
 2. ストラッセル 1:07.3
 3. ボ ッ シ ュ 1:07.3
 200m平 1. ラデマッヘル 2:39.1
 2. ボディンゲル 2:40.8
 3. シ ュ ッ タ ー 2:41.1
 ソ連選手権 モスコウ中央スポーツ,
 クラブ (50m)
 100m自 1. ポレボイ 58.3
 2. ニコラエフ 58.5
 3. ザベルタニー 58.8
 400m自 1. ニキティン 4:40.4
 2. クリオーコフ 4:44.3
 1500m自 1. ラブリネンコ 18:58.2
 2. アンドロソフ 19:04.8
 3. ストルザノフ 19:07.8
 100m背 1. クヴァルディン 1:07.4
 2. バルピエル 1:08.0

3. カメンスキー 1:08.4

200m平 1. ミナシキン 2:46.5

5/1 プラージュ (50m)

100m平 1. スポシル(チェコ)1:12.7世新

(標準記録 1:13.0)

5/26 ブタペスト (50m)

100mバタ 1. タンペク(ハンガリー) 1:03.4世新

(標準記録 1:03.5)

4/中旬 チューリン(伊) (33.3m)

100m自 1. ペロンディニ 58.7

200m平 1. マスペリ 2:42.5

4/下旬 プレーメン (25m)

100m自 ボーマン 56.8 17才 西独対

南 米

2/下旬 アルゼンチン選手権 ベノスアイレス(50m)

200m背 1. ラマス 2:35.9

2/下旬 ブラジル選手権 リオデジャネイロ(50m)

800m自 1. リマ 10:09.5

1500m自 1. " 19:48.0

4/上旬 サオ,パウロ選手権 (50m)

100m自 1. ラーラ 58.2

4/上旬 モンテヴィデオ

100m平 1. エスタデス 1:13.0南米新

そ の 他

5/1 中共メーデー祝賀大会 広東(水路不明)

100m平 1. 威烈伝 1:11.0

本年度上半期男子世界10傑表

記録はすべて長水路のものです。南半球以外は屋外のシーズンも浅く、未だ強豪の顔も出揃わない模様ですがとりあえず上半期のランキングを作ってみました。

×……碼種目 △……塩水コース ラ……途中計時

100m自由形

Devitt, J. 豪 54.6

Henricks, J. " 56.2

Chapman, Y. " △×57.2

林 錦 珠 中国 57.2

古 賀 学 日 57.7

Lara, H. M. 伯 58.2

Baumann, W. 西独 58.3

Polevoi, V. ソ連 58.3

Moore, R. 米 △58.3

谷 詔 日 ②58.4

200m自由形

Rose, M. 豪 △×2:06.5

Devitt J. " △×2:07.3

山 中 毅 日 2:07.4

Garretty, M. 豪 2:09.0

Zierold, H. 東独 2:09.7

Chapman, Y. 豪 △×2:10.0

川 岡 長 身 日 2:11.0

Onekea, Y. 米 △2:11.2

Moore, R. " △2:11.2

Nyeki, I. 洪 2:11.6

400m自由形

Rose, M. 豪 △×4:27.1

山 中 毅 日 4:34.8

dos Santos, S. K. 伯 4:36.6

Onekea, Y. 米 4:37.8

Zierold, H. 東独 4:39.0

Konrads, J. 豪 △×4:39.9

Nikitin, B. ソ連 4:40.4

Hamilton, Y. 豪 △×4:40.5

Winram, Y. " △×4:40.5

Garretty, M. " ×4:40.6

800m自由形

山 中 毅 日 ラ9:41.5

Garretty, M. 豪 ×9:45.9

北 畑 昌 英 日 ラ9:49.5

Winram, Y. 豪 △×9:49.5

Hamilton, Y. " △×9:50.5

Konrads, J. " ×9:52.0

Kissane, J. " ×9:58.8

池 尻 月 男 日 9:59.9

林 利 博 " 10:00.0

坂 梨 公 昭 " 10:00.3

1500m自由形

Rose, M. 豪 △×18:04.5

山 中 毅 日 18:28.4

北 畑 昌 英 " 18:48.9

Winram, Y. 豪 18:58.2

Lavrinenko, V. ソ連 18:58.2

Garretty, M. 豪 ×19:04.4

Androsov, ソ連 19:04.8

Struzhanov, " 19:07.8

野々下 耕 嗣 日 19:09.5

Gremlowski, Y. 波 19:16.8

100m背 泳

Theile, D. 豪 1:03.3

Monckton, J.	"	×	1:03.9
Kovacs, N.	洪		1:05.9
長谷景治	日		1:06.1
富田一雄	"		1:06.1
Kuvaldin, Y.	ソ連		1:07.4
Miersch, Y.	西独		1:07.6
Barbier,	ソ連		1:08.0
Weiser, J.	米	△	1:08.1
Kamenski,	ソ連		1:08.4
200m 背 泳			
Monckton, J.	豪	△×	2:22.1
富田一雄	日		2:25.6
Theile, D.	豪		2:26.2
浜崎健	日		2:34.9
徳永誠哉	"		2:35.1
Caminski,	羅		2:35.4
渡辺和夫	日		2:35.5
近藤英毅	"		2:35.8
Lamas, F.	西		2:35.9
Fingleton, D.	豪	×	2:36.8
100m 平 泳			
威烈雲	中国		1:11.0
Svozil, V.	チェコ		1:12.7
穆祥雄	中国		1:13.7
Gathercole, T.	豪		1:14.2
Jalma-ani, A.	比		1:15.2
杉山明男	日		1:15.6
古川勝	"		1:15.8
Middleton, Y.	豪	×	1:15.0
木村基	日		1:16.0
曾英逸	中国		1:16.2
200m 平 泳			
Gathercole, J.	豪	×	2:40.9
古川勝	日		2:42.2
Klopotowski, A.	波		2:43.2
穆祥雄	中国		2:43.8
Oanta, A.	羅		2:43.9
威烈雲	中国		2:44.0
Svozil, V.	チェコ		2:44.7
韋焜沅	中国		2:45.2
吉村昌弘	日		2:45.3
増田勲	"		2:45.4
100m バタフライ			
石本隆	日		1:01.3
Tumpek, Y.	洪		1:03.4
増永文昭	日		1:03.4

Wilkinson, B.	豪		1:03.5
Ats, J.	洪		1:03.9
門田幸一	日		1:04.2
坂井逸次	"		1:04.7
Onekea, Y.	米	△	1:05.8
Popescu, A.	羅		1:06.0
Honda,	米		1:06.5
200m バタフライ			
石本隆	日		2:22.0
Tumpek, Y.	洪		2:25.9
Pazdirek, P.	チェコ		2:26.6
Honda, R.	米	△	2:27.2
増永文昭	日		2:27.9
Liber,	西独		2:31.7
開田幸一	日		2:31.7
Wilkinson, B.	豪	△	2:31.8
吉垂田治男	日		2:32.0
Marshall, J. B.	豪		2:32.3

(以上7月末現在)

○中共の最近の躍進は目ざましいものがあるが1956年末における最高記録は次の通りで、1949年以前のものに比べて素晴らしい進歩である。

	1949年以前	1956年末	
男子 100m 自	1:03.3	57.8	林錦珠
200m 自	—	2:09.8	"
400m 自	5:33.2	4:47.4	李喜慶
1500m 自	22:59.2	19:38.0	"
100m 平	—	1:10.4	穆祥雄
200m 平	2:58.0	2:36.0	"
100m バタ	—	1:06.3	王強立
200m バタ	—	2:38.7	"
100m 背	1:16.0	1:06.4	呉伝玉
200m 背	—	2:32.8	林錦珠
400m メドレーリレー	—	4:25.9	中共チーム
800m リレー	11:04.3	9:05.1	中共チーム
女子 100m 自	1:20.6	1:11.2	戴麗萃
200m 自	—	3:04.6	趙湊
400m 自	7:16.3	5:52.6	伝翠美
100m 平	—	1:25.4	戴麗萃
200m 平	3:38.5	3:02.7	戴麗萃
100m バタ	—	1:22.4	黄蓮萃
100m 背	1:39.4	1:22.4	伝翠美
400m メドレーリレー	—	5:37.5	中共チーム
400m メドレーリレー	—	4:55.4	中共チーム

ついでに水泳の中国語を紹介しよう。

- 100m 自由形——100公尺自由泳
- 200m 平 泳——200公尺蛙 泳
- 100m バ タ——100公尺蝶 泳
- 100m 背 泳——100公尺仰 泳
- 800m リレー——4×200公尺自由泳接力
- 400m メドレーリレー——4×100公尺混合式接力

連盟日誌 (昭和32年度1月—5月)

- 1月4日(金) 事務所開く
 8日(月) 水泳懇談会(精養軒)
 10日(木) 常務理事会
 11日(金) 記録委員会
 普及部専門委員会
 14日(月) 飛込委員会
 水球合同練習会始る(錦糸町プール)
 16日(水) 顧問, 評議員会(精養軒)
 普及委員会
 17日(木) 学生実行委員会
 常務理事会
 19日(土) 学生職務委員会(体協)
 22日(火) 水泳懇談会(精養軒)
 常務理事会
 23日(水) 室内プール建設委員会
 シンクロ委員会
 24日(木) 理事会
 25日(金) 水球委員会
 26日(土) 顧問評議員会(精養軒)
 学生代表委員会(〃)
 27日(日) 定例代議員会(〃)
 28日(月) 水球合同練習会終る
 29日(火) 室内プール建設委員会
 31日(木) 常務理事会
- 2月2日(土) 室内プール建設委員会
 早, 慶, 立, 明, 日, 中大打合せ会
 4日(月) 飛込委員会
 普及委員会
 5日(火) 水球委員会
 7日(木) 常務理事会
 8日(金) 室内プール建設委員会(都庁)
 9日(土) 水泳指導者協会準備会
 10日(日) 新理事会(体協)
 11日(月) 飛込委員会
 15日(木) 常務理事会
 6大学監督打合せ会
 16日(土) 顧問評議員会(精養軒)
 学生総務委員会(体協)
 18日(月) 常務理事会
 記録委員会
 19日(火) 指導者協会準備会(東鉄クラブ)
 21日(木) 学生常任委員会
- 22日(金) 常務理事会
 23日(土) ブロック理事打合せ会(体協)
 全国理事会(〃)
 臨時学生代表委員会
 24日(日) 臨時代議員会
 27日(水) 指導者協会準備会
- 3月1日(金) 学生常任委員会
 水連懇談会(松むら)
 4日(月) 〃(〃)
 7日(木) 常務理事会
 9日(土) 学生水球委員会
 記録委員会
 11日(月) 神宮プール専門委員会
 勤労者大会打合せ会
 学生常任委員会
 競泳委員会
 12日(火) シンクロ委員会
 13日(水) グラナドス(スペイン) 来日
 14日(木) 常務理事会
 15日(金) 水球委員会
 16日(土) 飛込委員会
 18日(月) 普及委員会
 19日(火) 中学校水泳懇談会
 20日(水) 勤労者大会打合せ会
 編集委員会
 カクラン(豪) 歓迎会(松坂)
 22日(金) 学生総務委員会(体協)
 常務理事会
 25日(月) シンクロ講習会始る(錦糸町プール)
 普及委員会
 グラナドス歓迎会(松坂)
 26日(火) 指導者南会総会打合せ会
 水球委員会
 27日(水) 「水泳」誌(巻頭言) 打合せ会
 グラナドス離日
 28日(木) 常務理事会
 30日(土) 記録委員会
 シンクロ講習会終る
 31日(月) 指導者協会設立総会(体協)
- 4月1日(月) 委員長会議
 学生常任委員会
 2日(火) 水球委員会

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 4日(木) 常務理事会 | 6日(月) 学生総務委員会(体協) |
| 5日(金) 普及委員会 | 普及委員会 |
| 8日(月) 学生水球委員会 | 水球OB選考準備会 |
| 普及委員会 | 9日(木) 常務理事会 |
| 10日(水) 水球コーチ団打合せ会 | 11日(土) 学生水球委員会 |
| 競泳委員会 | 学生常任委員会 |
| 11日(木) 常務理事会 | 14日(火) 水球審判打合せ会 |
| 12日(金) 指導者協会幹事会 | 富山水協との懇談会 |
| 13日(土) 水球合同練習会始る(東大プール) | 16日(月) 競泳委員会 |
| 水球映画会 | 常務理事会 |
| 日本泳法研究会(伊東プール) | 17日(金) 医事救助法委員会 |
| 14日(日) " (") | 18日(土) 施設委員会 |
| 15日(月) 記録委員会 | 20日(月) 早慶対抗メンバー交換会 |
| 16日(火) 飛込委員会 | 21日(火) 学生常任委員会 |
| 18日(木) 常務理事会 | 普及委員会 |
| 20日(土) 指導者協会幹事会 | 学生水球委員会 |
| 22日(月) 学生常任委員会 | 22日(水) 水球審判委員会 |
| 水球合同練習会終る | 23日(木) 常務理事会(体協) |
| 23日(火) 報道関係との懇談会(369 餐厅) | 競泳映画会(") |
| 24日(水) 泳法研究会(東大プール) | 学生水球委員会 |
| 飛込委員会 | 24日(金) 飛込委員会 |
| 審判測定器委員会(精養軒) | 28日(火) 3大学メンバー交換会 |
| 25日(木) 常務理事会 | 29日(水) 水球委員会 |
| 26日(金) 水球委員会 | 30日(木) 常務理事会 |
| 5月1日(火) 競泳委員会 | 31日(金) 普及委員会 |
| 学生委員会 | 6月2日(日) 早慶対抗水上競技大会(神宮プール) |
| 2日(木) 記録委員会 | |

編集後記 暑中お見舞申し上げます。長い梅雨があたけかと思うと、猛烈な暑さです。ここ丸ビル7階の事務所は冷房もなく、ムシ風呂の様な有様で、一同フーフーいいながらも元気でやっております。

本号は依頼してあった原稿がおくれて、当初の計画が実行されず、薄っぺらのものとなってしまいました。原稿料も差し上げられないので、ウルさくもいえません。

次号は日本選手権を中心に、早大の中共行、水球のパリー行などを賑々しくのせたいとハリキっています。

(宍道)

編集委員 (アイウエオ順 ◎印委員長)

上野 徳太郎	川田 友之	金田 平八郎	金子 巍	菊地 章
串田 正夫	三枝 美貴子	志村 文一郎	島田 桃一郎	◎宍道 洋一
鈴木 祐一	高橋 静子	多治見 祐孝	中村 雅明	

日本水泳連盟
機関雑誌

水 泳

第 116 号

昭和 32 年 8 月 10 日 印刷
昭和 32 年 8 月 15 日 発行
日本水泳連盟

編集兼 宍道 洋一
発行人

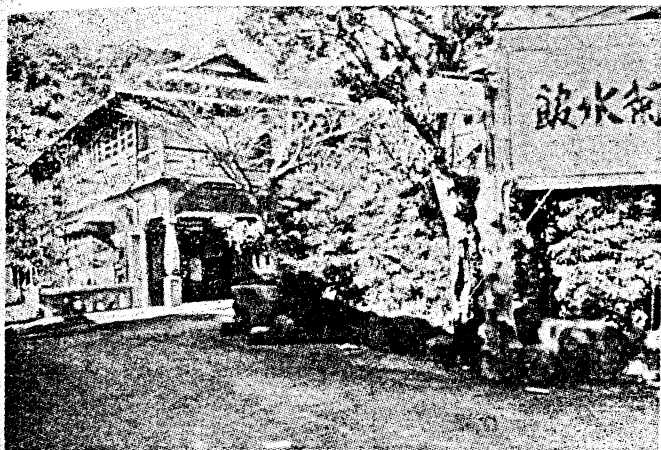
印刷所 株式会社 成島印刷所
東京都中央区日本橋本石町 3の4
電話日本橋(24)1701・6509・7082

定 価 (年 4 回 発行)
1年分 ¥300.- (予約申込者に限り頒布) 1ヶ年前金予約は郵送料不要。

東京都千代田区丸ノ内2-2
丸ビル722区

発行並 日本水泳連盟
申込所

電話和田倉(20)3090・4885番
振替口座東京 5178番



日本交通公社協定旅館

温泉館 菊水館

別館 温泉プール

静岡県南伊豆下河津村峰
電話 川津浜 18・218・219番

温泉プール 屋外25米 5コース 深1.3米

閑雅清爽 湯量豊富にして

修学旅行水泳合宿団体に最適

施設 収容人員200名様

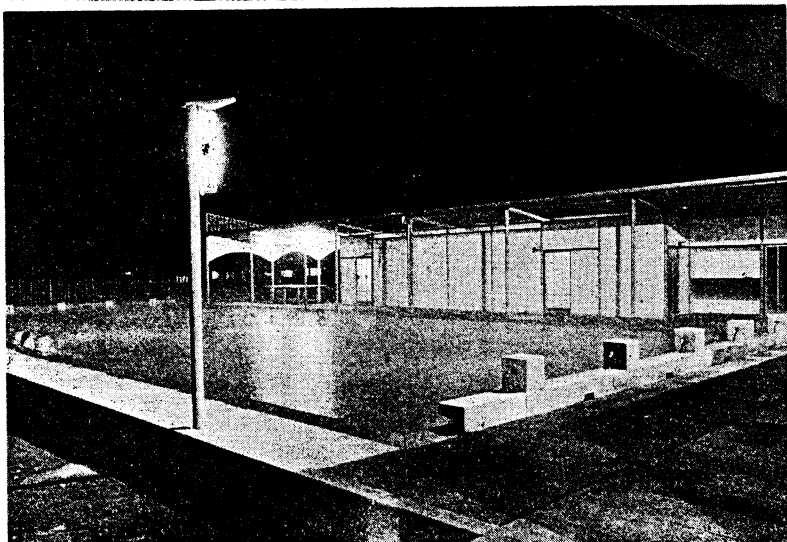
露天、内風呂、家族風呂、
貸切、合せて大小12浴場
舞台付大広間 ホール、テ
レビ、ピンポン、麻雀

宿泊料 一般1000円より、団体800円
より 学生400円より

案内所 東京 日本橋堀留町1の11
みくに会
Tel. (66) 5766

名古屋 中区南大津通3の6
Tel. (24) 4792

大阪 浪速区北日東町 138
Tel. (64) 7664



競泳プール用

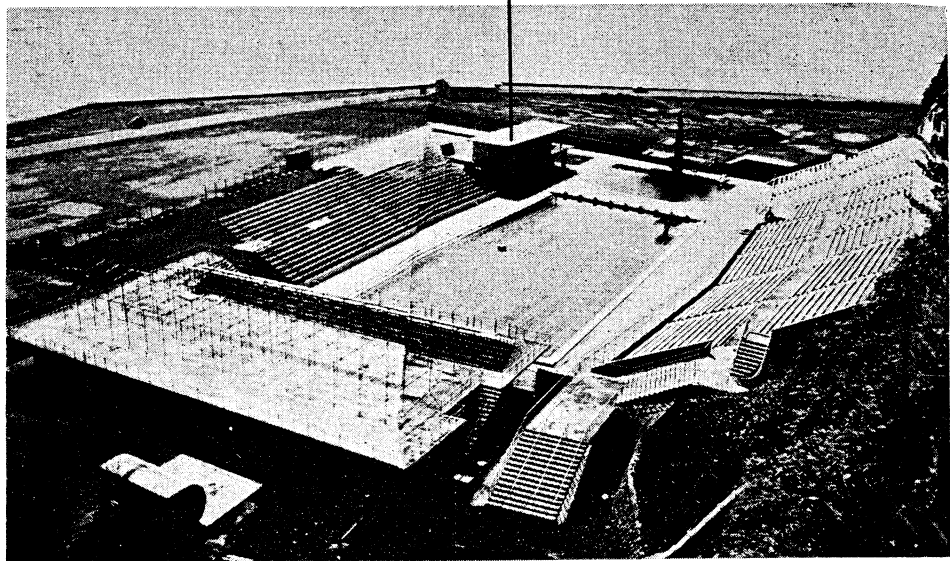
最新式循環濾過装置

設計 施行

競泳 50 m 及 25 m プール、徒渉プール、娯楽プール、
温泉プール、戸外及室内プール、浴場プール用
塩素滅菌圧入式・硫酸銅比例圧入式・急速濾過循環式

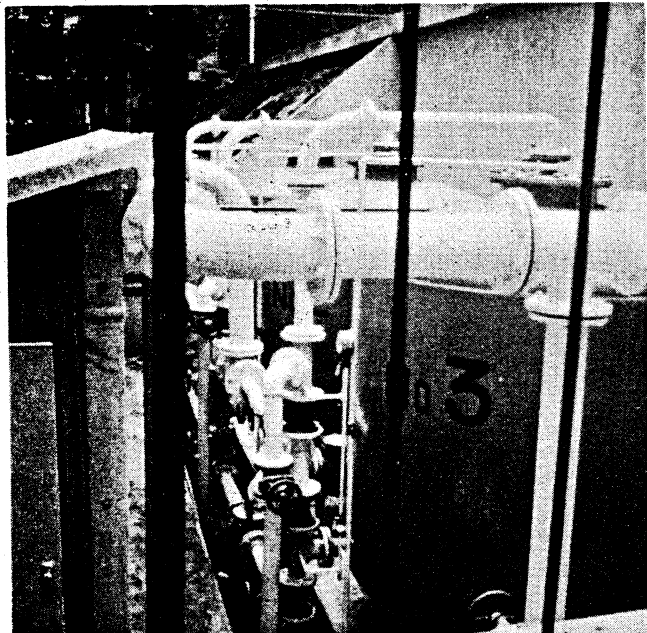
循環浄化要領

プール容量の循環換水は少くも24時中3回であります。しかも薬品自動注入方式による急速濾過機を経て完全に滅菌し、且又アルゼーの発生を防止した完全な浄水が循環致します。依つて水泳者は清澄な水の中で安全に快く泳げます。



循環浄化装置はこの建物の地下室

50m競泳プール及び飛込プール



主要実績

- 鎌倉市営プール
- 立教プール
- 相模原米軍プール
- シヨンソンA B 白井プール
- 岐阜キャンピング米軍プール
- 白金小学校プール
- 九段高校プール
- 富士銀行 済美山プール
- 水戸県営プール
- 水産大学プール
- 仙台女子高校プール
- 第一銀行プール
- 第一生命プール
- 其他プール

RATE OF FILTRATION

急速濾過機は内部濾床の最有効の型式でありまして、濾過率3ガロン/平方呎/分以上は許されません。一定時間運転後に一基づつ逆洗々滌が出来、且又内部表面洗滌も出来ます。

東工業株式会社

本社 東京都港区芝白金台町2ノ34
電話 白金(44)2161~4・9746
工場 港区・目黒区

大阪 大阪市西区靱上通6ノ35
営業所 電話 土佐堀(44)2657
九州出張所 福岡市古濃町8
電話 東(2)5507